

上大利南土地地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ

# 牛頸野添遺跡群Ⅰ

～ 第2・3次調査 ～

大野城市文化財調査報告書 第62集

2004

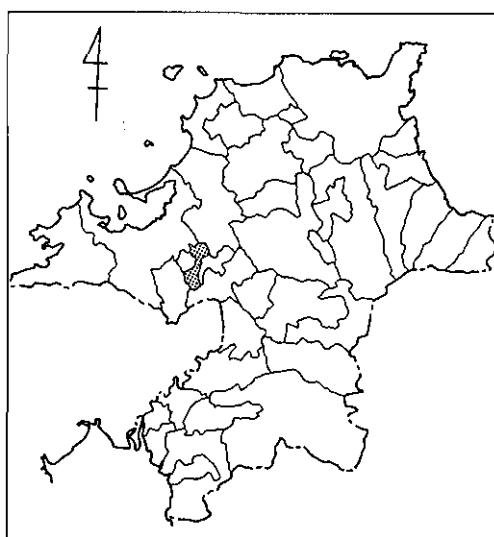
大野城市教育委員会

上大利南土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ

うし くび の ぞえ い せき ぐん  
**牛頸野添遺跡群Ⅰ**

～ 第2・3次調査 ～

大野城市文化財調査報告書 第62集



2004

大野城市教育委員会





野添遺跡第2・3次調査地航空写真





2次調査地全景（南から）



2次2号窯跡全景（南から）





2次2号窯跡煙道部（南から）



2次2号窯跡窯壁焼成状況（南西から）





2次SB01検出状況（南から）



2次2号窯跡検出状況（南から）





2 次 SB01出土遺物



2 次 2 号窯跡出土遺物



# 序

大野城市は福岡平野の一角にあたり、北側に大城山、南側に背振山系が広がる縦長の市域を有しており、その形はよくヒョウタンに例えられます。このヒョウタンのくびれた部分にあたる上大利地区で区画整理事業が計画されたため、平成13年度より埋蔵文化財発掘調査を進めてまいりました。今回は、上大利南土地区画整理地内で調査した遺跡について報告します。

今回の調査を含めて、上大利周辺ではたくさんの遺跡が見つかっています。古くは旧石器・縄文時代の遺跡も見つかっていますが、最も注目されるのは須恵器窯跡です。上大利地区は牛頸窯跡群の北側にあたり、牛頸窯跡群最古の野添6号窯跡を含みますが、今回事業対象地となった地区はこれまで埋蔵文化財の調査が行われておらず、内容がよく分かっていませんでした。

今後区画整理事業の進展に従い発掘調査が進むことで、事業地内の遺跡の状況が明らかになるとともに、九州最大の牛頸窯跡群がどのような状況で操業を続けているか分かってくるでしょう。それは大野城市のみならず全国的にも注目されることで、本報告がその一端を解明する手がかりとなることを願います。

最後になりましたが、上大利南土地区画整理組合をはじめ(株)中野建設や工事関係者、ならびに地元の方々にご協力とご理解をいただきましたこと厚く御礼申し上げます。

平成16年3月31日

大野城市教育委員会

教育長 古賀 宮太



## 例 言

1. 本書は、大野城市教育委員会が上大利南土地地区画整理事業にともなって発掘調査を実施した、大野城市大字上大利所在の野添遺跡第2・3次発掘調査の報告書で、本事業に係る報告書の1冊目にあたる。なお上大利地区は牛頸窯跡群の範囲に含まれており、こうした歴史事象を踏まえたことから本書の表題を『牛頸野添遺跡群』とした。
2. 発掘調査は、大野城市上大利南土地地区画整理組合の委託を受け大野城市教育委員会が実施した。
3. 本書における遺構の分類番号は、整理の都合上SB：堅穴住居跡とした。
4. 遺構写真は、2次調査は平島義孝、3次調査は石木秀啓が撮影し、2・3次調査全体写真については㈱写測エンジニアリングが受託した航空写真図化業務で撮影されたものを使用した。
5. 遺物写真は、フォトハウスOKA（岡紀久夫、埋蔵文化財写真研究会員）が撮影した。
6. 遺構実測図は、2次調査は平島、3次調査は石木が作成し、各調査の地形測量図ならびに上大利地区旧地形図は㈱写測エンジニアリングに委託した。なお、地形測量図のコンターは10cm間隔である。
7. 遺構実測図中の方位は磁北を表し、図上の座標は国土座標を示す。
8. 遺物実測図は、岸見泰宏・西堂将夫・平島が作成した。
9. 製図は、渡部美香・岸見が作成した。
10. 拓本は、岸見が作成した。
11. 観察表は西堂・石木が作成した。
12. 本書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1/25000地形図『福岡南部』『太宰府』を使用した。
13. 本書の遺物・実測図・写真はすべて大野城市教育委員会が管理・保管している。
14. 本書に使用する土色名は、『新版標準土色帖』農林水産省農林水産技術会事務局監修を使用した。
15. 本書の執筆は、「Ⅱ－1第2次調査」のうち遺構については平島がおこない、その他の執筆と編集は石木がおこなった。



# 本文目次

## I. はじめに

1. 調査にいたる経緯..... 1
2. 平成13年度の調査経過..... 1～7
3. 調査体制..... 7～8

## II. 調査の結果

### 1. 第2次調査

- A. 調査概要..... 9～13
- B. 遺構と遺物..... 13～19
- C. 小結..... 19

### 2. 第3次調査

- A. 調査概要..... 20
- B. 遺構と遺物..... 20
- C. 小結..... 20

## III. ま と め

1. 窯跡出土資料の等級的位置付け..... 25～26
2. 権状製品について..... 26～28

# 図版目次

- |      |                             |                            |                             |
|------|-----------------------------|----------------------------|-----------------------------|
| 図版 1 | (1) 2次調査地調査前全景 (南から)        | (8) 2次2号窯跡A-A'面灰原土層 (南西から) |                             |
|      | (2) 2次調査地全景 (南から)           |                            |                             |
| 図版 2 | (1) 2次SB01全景 (北から)          | 図版 4                       | (1) 2次2号窯跡C-C'面土層 (南東から)    |
|      | (2) 2次2号窯跡全景 (南から)          |                            | (2) 2次2号窯跡C-C'面東半部土層 (南東から) |
| 図版 3 | (1) 2次SB01B-B'面北半部土層 (南西から) |                            | (3) 2次2号窯跡D-D'面土層 (南東から)    |
|      | (2) 2次SB01B-B'面南半部土層 (南西から) |                            | (4) 2次2号窯跡E-E'面土層 (南東から)    |
|      | (3) 2次SB01A-A'面西半部土層 (南東から) |                            | (5) 2次2号窯跡灰原横断面土層 (南東から)    |
|      | (4) 2次SB01A-A'面東半部土層 (南東から) | 図版 5                       | (1) 3次調査地全景 (北東から)          |
|      | (5) 2次2号窯跡A-A'面焼成部土層 (南西から) |                            | (2) 3次SX01全景 (北東から)         |
|      | (6) 2次2号窯跡A-A'面焚口部土層 (南西から) | 図版 6                       | (1) 3次SX03全景 (北東から)         |
|      | (7) 2次2号窯跡A-A'面前庭部土層 (南西から) |                            | (2) 3次SX01土層 (南東から)         |
|      |                             |                            | (3) 3次SX03土層 (南から)          |
|      |                             |                            | (4) 3次SX02A-A'面土層 (南東から)    |



|                             |                     |
|-----------------------------|---------------------|
| (5) 3次SX02B-B'面土層<br>(北東から) | 図版10 2次調査出土遺物④      |
| 図版7 2次調査出土遺物①               | 図版11 2次調査出土遺物⑤      |
| 図版8 2次調査出土遺物②               | 図版12 3次調査出土遺物       |
| 図版9 2次調査出土遺物③               | 図版13 2次調査出土須恵器ヘラ記号① |
|                             | 図版14 2次調査出土須恵器ヘラ記号② |

## 挿 図 目 次

|      |                                      |      |
|------|--------------------------------------|------|
| 第1図  | 平成12・13年度上大利南区画整理地内調査地位置図 (1/5000)   | 2    |
| 第2図  | 上大利区画整理地周辺地形測量図 (1948年米軍撮影) (1/5000) | 3    |
| 第3図  | 上大利土地地区画整理事業地内計画平面図                  | 4    |
| 第4図  | 周辺遺跡分布図 (1/25000)                    | 折り込み |
| 第5図  | 第2次調査地地形測量図 (1/250)                  | 9    |
| 第6図  | 2次SB01実測図 (1/60)                     | 10   |
| 第7図  | 2次SB01出土遺物実測図① (1/3)                 | 11   |
| 第8図  | 2次SB01出土遺物実測図② (1/3)                 | 12   |
| 第9図  | 2次SB01出土遺物実測図③ (1/6)                 | 13   |
| 第10図 | 2次SB01出土遺物実測図④ (1/3)                 | 14   |
| 第11図 | 2次SB01出土遺物実測図⑤ (1/2)                 | 15   |
| 第12図 | 2次2号窯跡実測図 (1/60)                     | 17   |
| 第13図 | 2次2号窯跡出土遺物実測図① (1/3・1/6)             | 18   |
| 第14図 | 2次2号窯跡出土遺物実測図② (1/2)                 | 19   |
| 第15図 | 3次調査地地形測量図 (1/250)                   | 21   |
| 第16図 | 3次SX01・03実測図 (1/40)                  | 22   |
| 第17図 | 3次SX02実測図 (1/60)                     | 22   |
| 第18図 | 3次調査出土遺物実測図 (1/3)                    | 20   |

## 表 目 次

|    |                              |       |
|----|------------------------------|-------|
| 表1 | 野添遺跡2次調査出土遺物観察表①             | 23    |
| 表2 | 野添遺跡2次調査出土遺物観察表②・3次調査出土遺物観察表 | 24    |
| 表3 | 福岡県内権状製品出土地名表                | 27～28 |

## 巻頭図版目次

|          |                                     |
|----------|-------------------------------------|
| 巻頭カラー図版1 | 野添遺跡第2・3次調査地航空写真                    |
| 巻頭カラー図版2 | 2次調査地全景 (南から)・2次2号窯跡全景 (南から)        |
| 巻頭カラー図版3 | 2次2号窯跡煙道部 (南から)・2次2号窯跡窯壁焼成状況 (南西から) |
| 巻頭カラー図版4 | 2次SB01検出状況 (南から)・2次2号窯跡検出状況 (南から)   |
| 巻頭カラー図版5 | 2次SB01出土遺物・2次2号窯跡出土遺物               |

# I. は じ め に

## 1. 調査に至る経緯

上大利地区は大野城市の中心よりやや南側に位置し、よくヒョウタンの形にたとえられる市域が最も狭くなる所にあたる。市域の東西幅が最も狭くなる所には県道31号線（通称5号線）が東西にのびており、この道路を境に南側が上大利南土地地区画整理事業地にあたる。事業地は牛頸山からのびる丘陵地で、施行面積18.9ha、計画人口700人と計画されている。上大利南土地地区画整理事業の経緯については以下のとおりである。

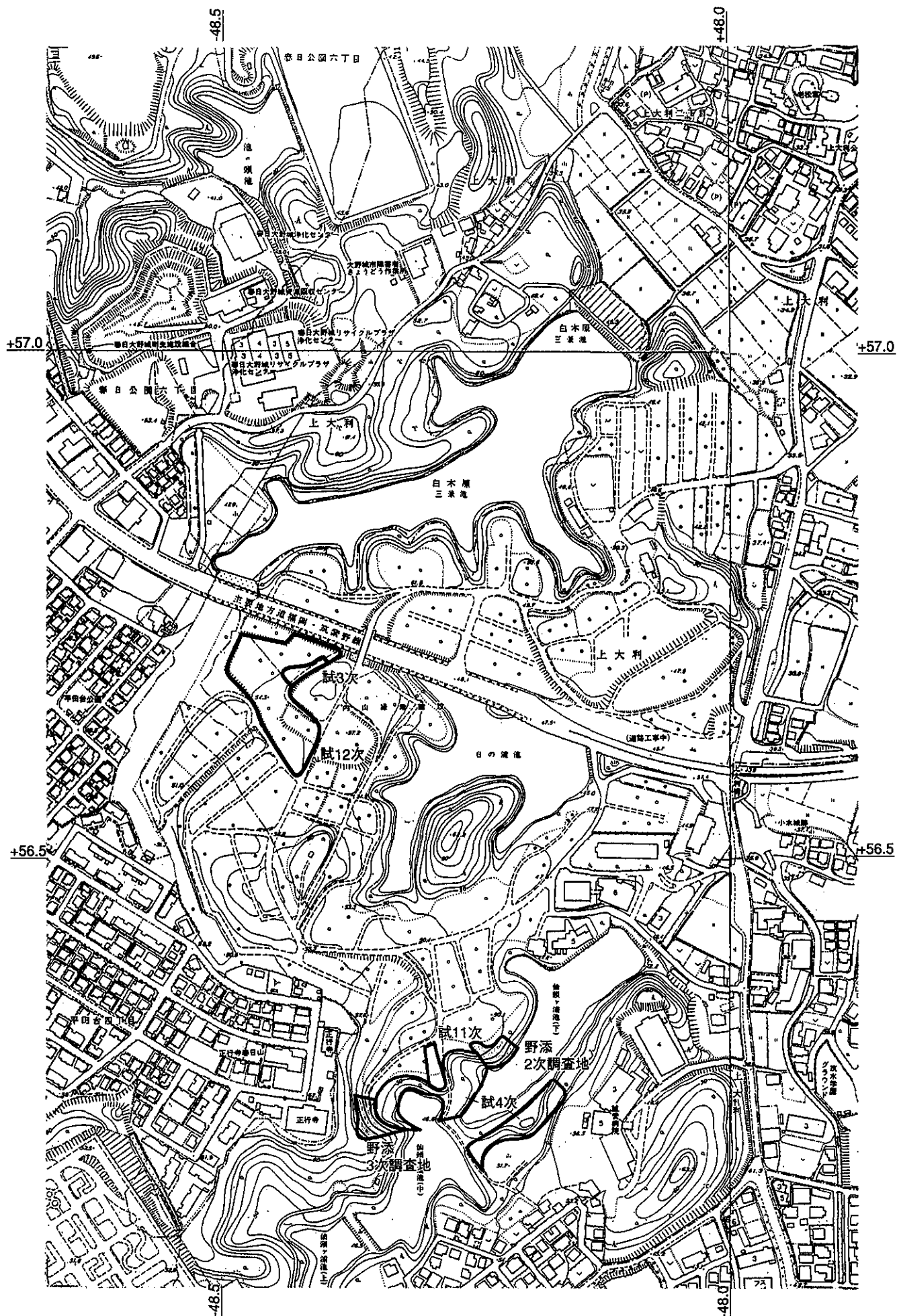
|             |                |
|-------------|----------------|
| 平成8年12月     | 発起人会発足         |
| 平成9年12月     | 地権者説明会（事業概要）   |
| 平成10年2月     | 地権者説明会、世話人会発足  |
| 平成12年5月     | 地権者説明会、設立準備会発足 |
| 平成13年5月17日  | 組合設立認可         |
| 平成13年10月15日 | 市街化区域編入、都市計画決定 |
| 平成13年10月31日 | 起工式開催          |

文化財については、平成10年7月より区画整理課企画指導担当と協議を開始した。平成11年7月には現地踏査をおこない、春日市側も含めて5ヶ所で遺物を採集したが、事業地内はすでに内山緑地による耕地化が徹底的におこなわれた後であり、旧地形の推測すらも難しい有様であった。したがってどのような調査が必要か不明な部分もあったが、開発面積が広大であることから発掘・試掘調査は複数年に渡ることが予想された。その後協議を重ね、発掘調査は他の調査との関係上平成13年度より実施すること、平成12年度より試掘調査可能な個所について順次実施していくこととなったが、内山緑地所有の樹木が事業地一杯に残っており、これらを移植後全面的に試掘調査を実施することを市教委から求めたものの当初これは難航した。また組合設立認可前であったため、平成12年の試掘調査は限られたものとなり、実際の調査は平成13年度より本格化した。平成13年6月22日付けで組合と大野城市教育委員会との間で上大利南土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査に関する協定書、9月4日付けで埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、試掘調査・発掘調査・工事がほぼ同時進行でスタートすることとなった。

## 2. 平成12・13年度の調査経過

平成12年度、上大利南土地地区画事業地内における埋蔵文化財調査としては、平成12年7月19・21日と平成13年3月12日～21日に試掘調査を実施した。7月の調査は上大利区画整理地内2次試掘調査として、日の浦池西側一帯に16ヶ所のトレンチを設定したが、当時は内山緑地の管理する樹木が事業地一杯に残っていたため、必然的に木の間をぬって小型の重機でトレンチを掘り下げるような調査となった。トレンチを掘り下げた結果、現地表下50cmくらいで花崗岩バイラン土を検出できる所と、丘陵斜面と判断される旧表土が検出され現地表下3m以上掘り下げても底が見えない所があった。平成12年度当時、事業地内は樹木を植えた畑状の区画が段々に広がっていたが、ここは元来丘陵があった





第1図 平成12・13年度上大利南区画整理地内調査地位置図 (1/5000)

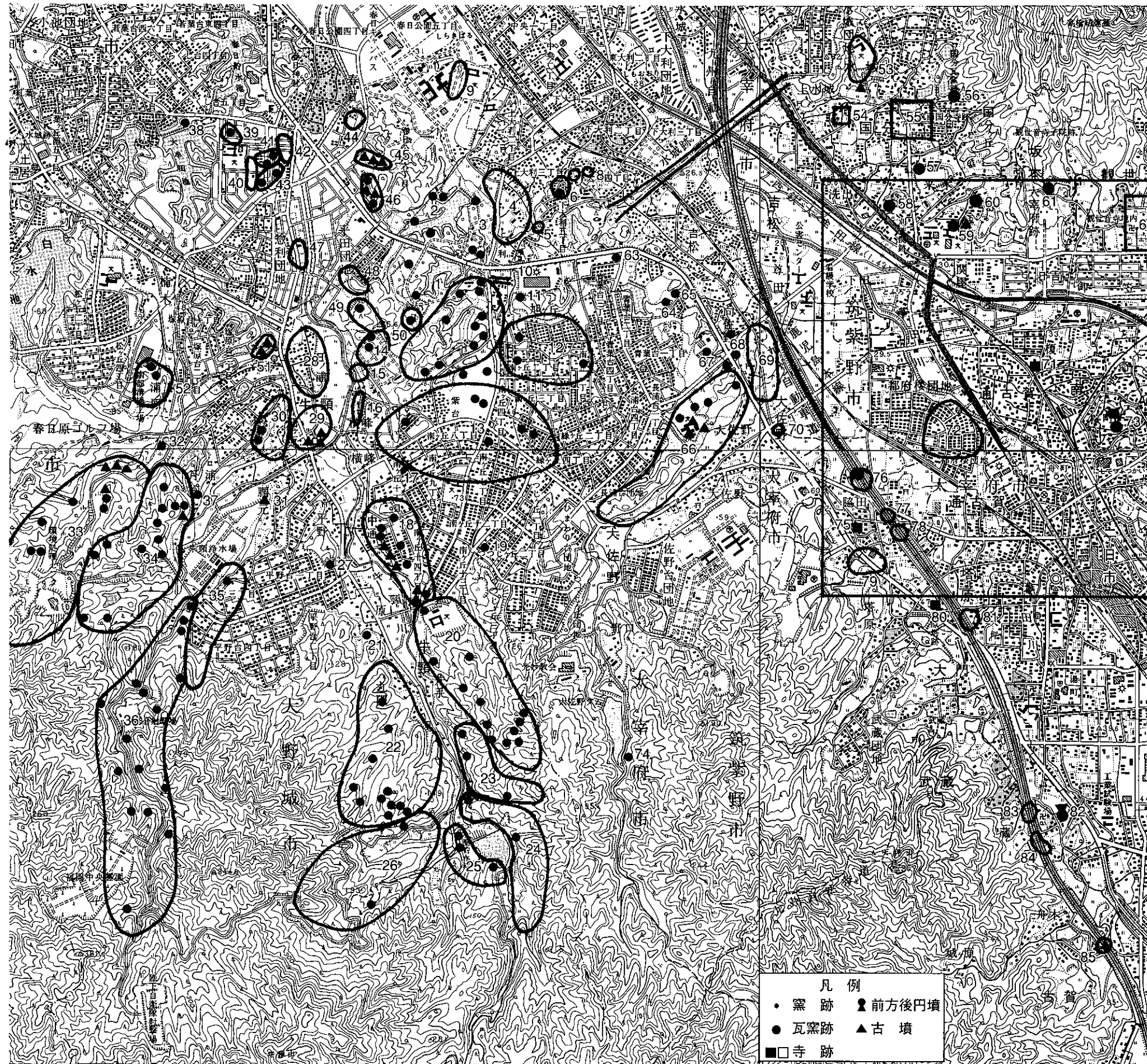


第2図 上大利区画整理地周辺地形測量図（1948年米軍撮影）（1/5000）





第3図 上大利土地地区画整理事業地内計画平面図



第4図 周辺遺跡分布図 (1/25000)

〔大野城市〕

1. 野添遺跡群
2. 梅頭遺跡群
3. 本堂遺跡群
4. 上園遺跡
5. 出口遺跡
6. 出口窯跡
7. 唐土遺跡
8. 谷川遺跡
9. 池田・池の上遺跡
10. 上大利小水城
11. 谷蟹窯跡
12. 大浦窯跡群
13. 平田窯跡群
14. 華無尾窯跡
15. 華無尾遺跡
16. 屏風田遺跡
17. 東浦窯跡群
18. 中通遺跡群
19. 上平田遺跡
20. ハセムシ窯跡群
21. 原窯跡
22. 井手窯跡群
23. 道ノ下窯跡群
24. 長者原窯跡群
25. 笹原窯跡群
26. 足洗川窯跡群
27. 城ノ山窯跡群
28. 日ノ浦遺跡群
29. 塚原遺跡群
30. 畑ヶ坂遺跡群
31. 胴ノ元古墳
32. 小田浦28地点
33. 後田遺跡群
34. 小田浦遺跡群
35. 大谷窯跡群
36. 石坂窯跡群
37. 月ノ浦1号窯跡
- 〔春日市〕
38. 大牟田窯跡
39. 惣利窯跡群
40. 惣利西遺跡
41. 惣利遺跡
42. 惣利北遺跡
43. 惣利東遺跡

44. 向谷北遺跡
45. 向谷古墳群
46. 平田北遺跡
47. 円入遺跡
48. 春日平田遺跡
49. 春日平田西遺跡
50. 春日平田東窯跡
51. 塚原古墳群
52. 浦ノ原窯跡群
- 〔太宰府市〕
53. 陣ノ尾古墳・遺跡
54. 筑前国分尼寺
55. 筑前国分寺
56. 国分瓦窯跡
57. 坂本瓦窯跡
58. 松倉瓦窯跡
59. 来木古墳群・瓦窯跡
60. 来木北瓦窯跡
61. 都府楼北窯跡
62. 観世音寺
63. 神ノ前窯跡
64. 篠振遺跡・窯跡
65. 尊田窯跡
66. 宮の本遺跡
67. 長浦窯跡
68. 向佐野窯跡
69. 前田遺跡
70. 尾崎遺跡
71. 榎寺
72. 市ノ上遺跡
73. 般若寺・瓦窯跡
74. 野口窯跡
- 〔筑紫野市〕
75. 杉塚廃寺
76. 剣塚遺跡・瓦窯跡
77. 前田遺跡
78. 唐人塚遺跡
79. 脇田遺跡
80. 塔原廃寺
81. 桶田山遺跡
82. 原口古墳
83. 八隈遺跡
84. 畑添遺跡
85. 扇祇古墳群



ものを内山緑地の開発により丘陵頂部を削り、谷を埋めたてて畑となる平坦面をつくるという極めて大規模な造成が行われていることが明らかとなった。

こうした状況を受けて3次試掘調査とした3月の調査では削平された丘陵頂部から斜面を検出し、斜面上に残された遺構や遺物の検出に努めた。その結果、西側へ開口する谷と少量ながら須恵器・土師器の出土があった。このため上大利区画整理事業地においては南北ともに事業地全面を試掘調査の対象地とし、丘陵斜面から埋没している谷をすべて重機により掘り下げ、遺構と遺物の検出を行うことで両組合と合意した。このため13年度以降試掘調査にかかる費用は莫大な額となったが、費用負担をはじめ排土の搬出等に多大な協力を頂いた両組合にこの場を借りて感謝の意を表したい。

平成13年度は、6ヶ所（4・6・7・11～13次）の試掘調査を実施した。6・7・11次試掘調査は限定されたトレンチ調査であったため遺構・遺物は確認されなかったが、本格的な掘り下げをおこなった4・12・13次試掘調査では遺構が確認され、4・12次では灰原、13次では遺構を検出した。このため、工事の進行を合わせて南組合と協議をおこない、4次試掘調査を野添遺跡第2次調査、13次試掘調査を野添遺跡第3次調査として発掘調査を実施した。調査期間・面積等については下の表のとおりである。

|                | 遺跡名       | 試掘調査回数 | 試掘調査期間                   | 発掘調査期間           | 調査面積(㎡) | 担当 |
|----------------|-----------|--------|--------------------------|------------------|---------|----|
| 発掘調査<br>平成13年度 | 野添遺跡第2次調査 | 4次     | 平成13年10月2日～16日、12月18～21日 | 平成14年1月30日～2月26日 | 385     | 平島 |
|                | 野添遺跡第3次調査 | 13次    | 平成14年1月30日～2月1日          | 平成14年2月13日～3月8日  | 1145.7  | 石木 |

### 3. 調査体制

発掘調査ならびに整理作業における調査体制は以下のとおりである。

#### 平成13年度発掘調査

[大野城市教育委員会]

|         |                  |
|---------|------------------|
| 教育長     | 堀 内 貞 夫          |
| 教育部長    | 青 木 克 正（～14年2月）  |
|         | 鬼 塚 春 光（14年3月～）  |
| 社会教育課長  | 片 岡 猛            |
| 文化財担当係長 | 舟 山 良 一          |
| 主査      | 徳 本 洋 一          |
| 主任技師    | 石 木 秀 啓          |
|         | 丸 尾 博 恵          |
|         | 林 潤 也            |
| 主事      | 大 道 和 貴          |
| 嘱託      | 元 吉 知 子          |
|         | 平 島 義 孝（13年10月～） |

[上大利南土地画整理組合]

|      |         |
|------|---------|
| 理事長  | 森 山 繁 喜 |
| 副理事長 | 樋 口 敬 記 |
| 事務局長 | 平 田 清 憲 |
| 技術職  | 濱 本 泰 司 |
| 事務職  | 戸 渡 美智子 |

平成15年度整理作業

[大野城市教育委員会]

|         |                  |
|---------|------------------|
| 教育長     | 堀 内 貞 夫 (～15年6月) |
|         | 古 賀 宮 太 (15年6月～) |
| 教育部長    | 鬼 塚 春 光 (14年3月～) |
| 社会教育課長  | 秋 吉 正 一          |
| 文化財担当係長 | 舟 山 良 一          |
| 主査      | 徳 本 洋 一          |
| 主任技師    | 石 木 秀 啓          |
|         | 丸 尾 博 恵          |
|         | 林 潤 也            |
| 主任主事    | 大 道 和 貴          |
| 嘱託      | 上 田 恵 (～15年4月)   |
|         | 島 田 拓 (～15年5月)   |
|         | 平 島 義 孝          |
|         | 岸 見 泰 宏          |
|         | 西 堂 将 夫          |

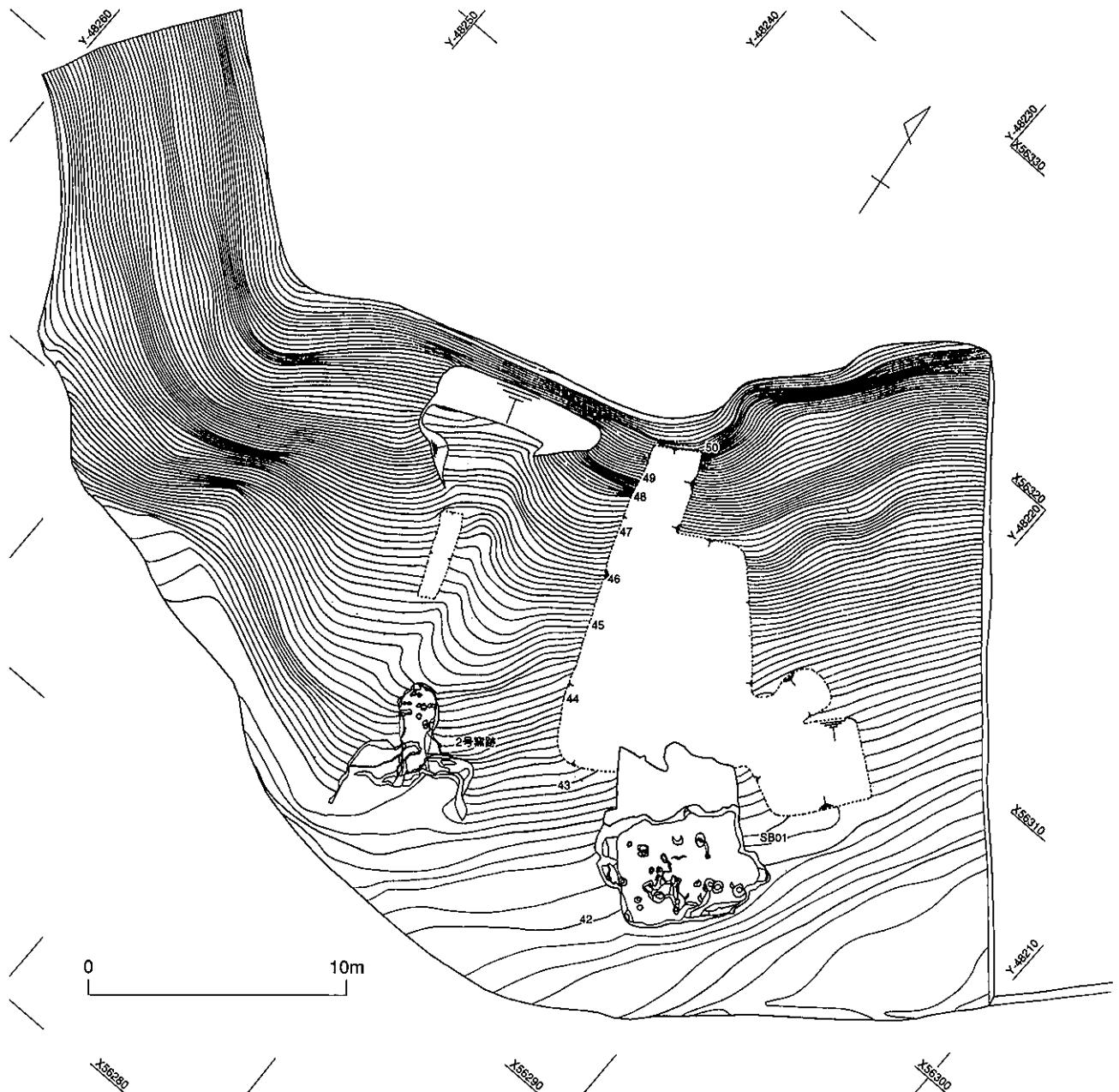


## Ⅱ．調査の結果

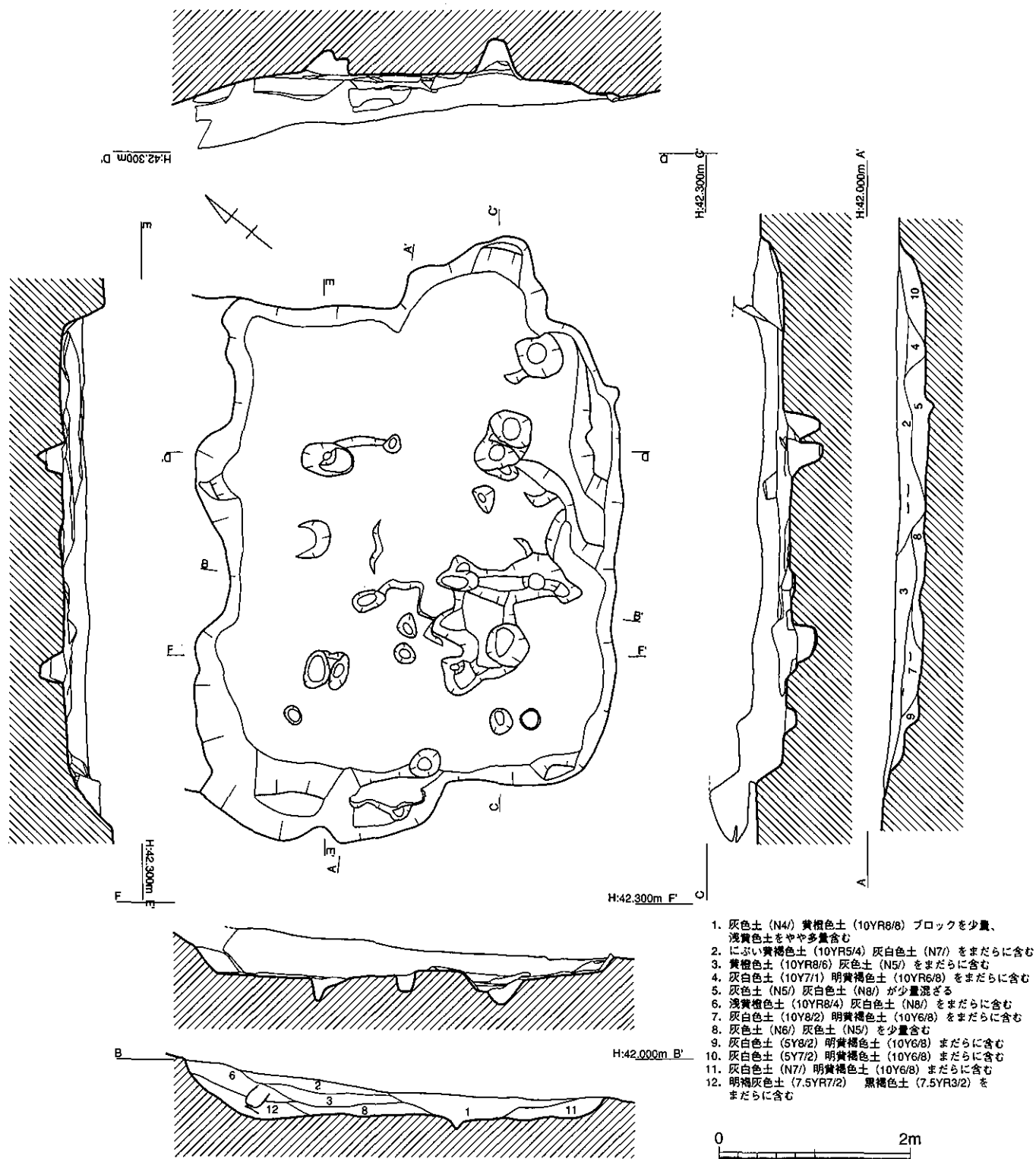
### 1．第2次調査

#### A．調査概要（第1図、巻頭図版1）

第2次調査地は、現在仙道ヶ浦下池に面した南側斜面に位置する。大野城市大字上大利606-1の一部にあたり、調査面積は385m<sup>2</sup>である。丘陵の頂部は内山緑地の開発によりすでに削平されており、平坦になっていた。試掘調査ではまず斜面下方のやや緩傾斜となる部分から表土剥ぎを実施したところ、窯跡の煙出し部が検出された。このため周辺を斜面上方より剥いだところ、先に検出された煙出し部下方に灰原を確認し、さらに約4m北東に離れたところに2×3mくらいの黒色土の広がりを確認した。また両者の灰原からは須恵器が多量に表採されたため、試掘調査を終了した段階では灰原を



第5図 第2次調査地地形測量図（1/250）

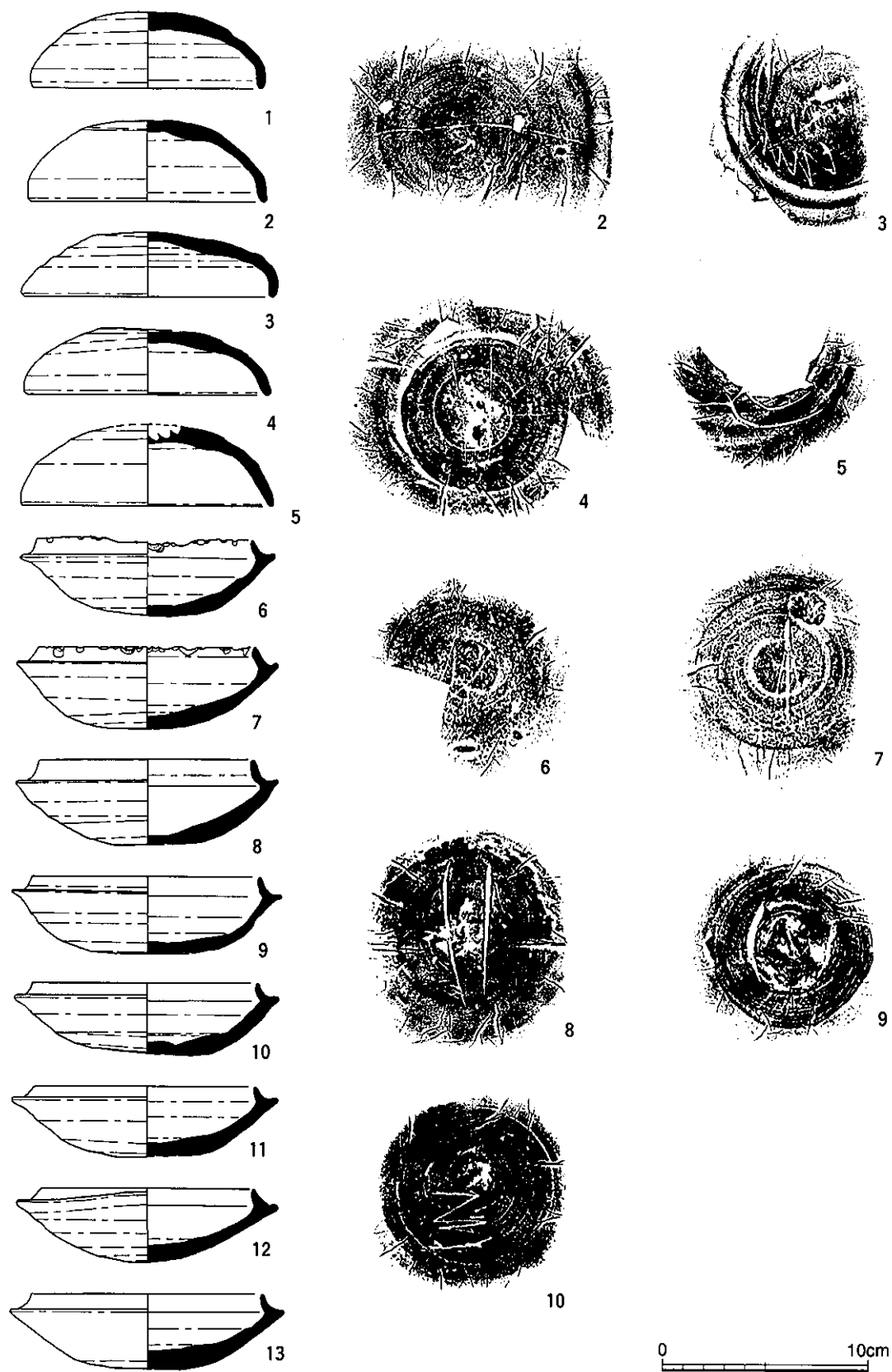


第6図 2次SB01実測図 (1/60)

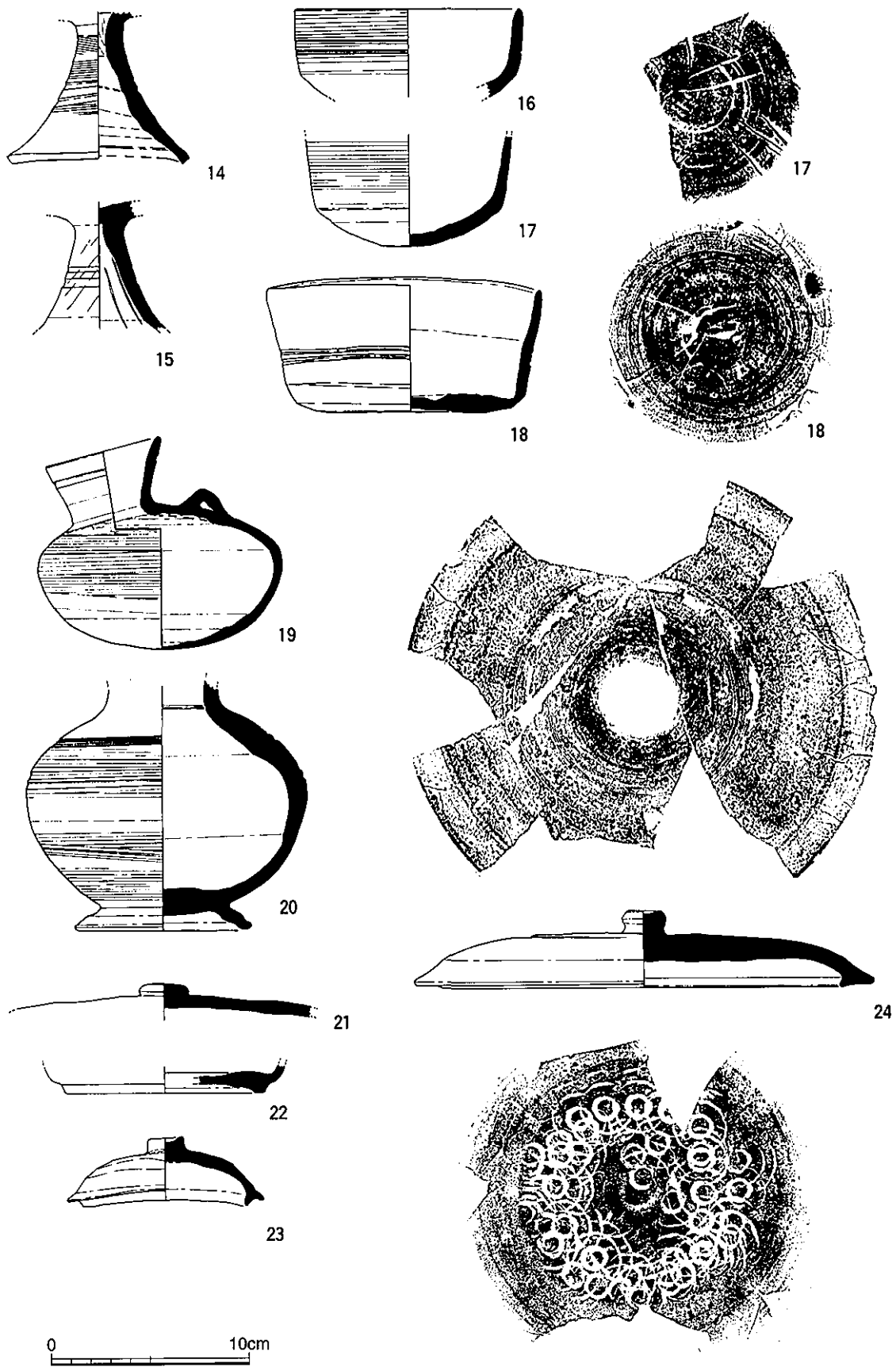
2ヵ所確認したものと判断した。

こうした状況で発掘調査に入ったが、東側のものを1号、西側のものを2号として掘り下げを開始した。しかし1号においては斜面側を大きく掘り下げても窯体が確認されず、灰原と考えていた埋土を掘りきった時点でようやく竪穴住居跡と判断したのであった。後日写真で確認したところ、方形の

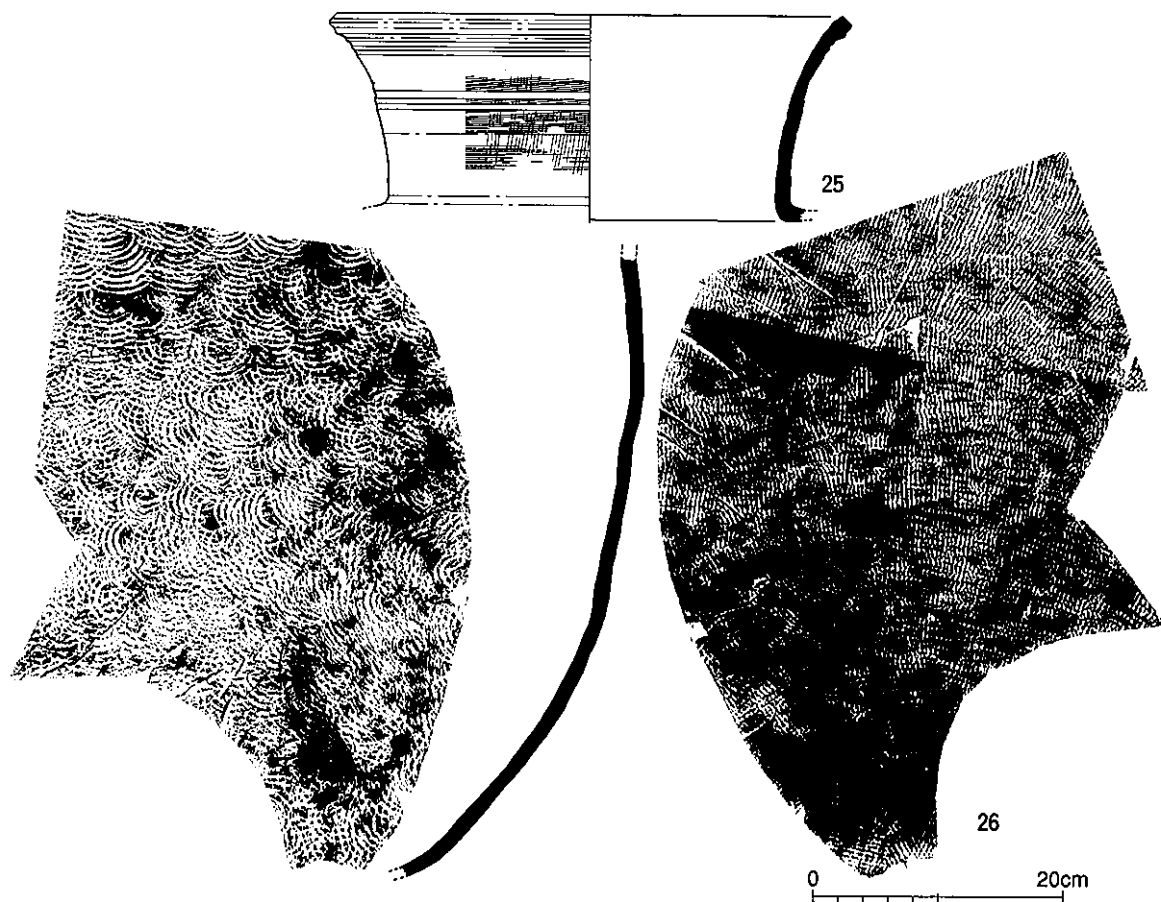




第7図 2次SB01出土遺物実測図①(1/3)



第8図 2次SB01出土遺物実測図②(1/3)



第9図 2次SB01出土遺物実測図③(1/6)

プランの住居が写っており、窯跡と考えると大きく掘り広げ、住居の形状を著しく損なったのは試掘担当者の責任である。また調査地より北東側に続く斜面は周回園路造成のため削平されたが、2次調査地側において少量の遺物の出土があったが遺構は認められなかった。したがって調査地内の竪穴住居跡は1軒しか検出されていないが、園路造成の際の調査は不十分であり、周辺に遺構の広がりがある可能性がある。

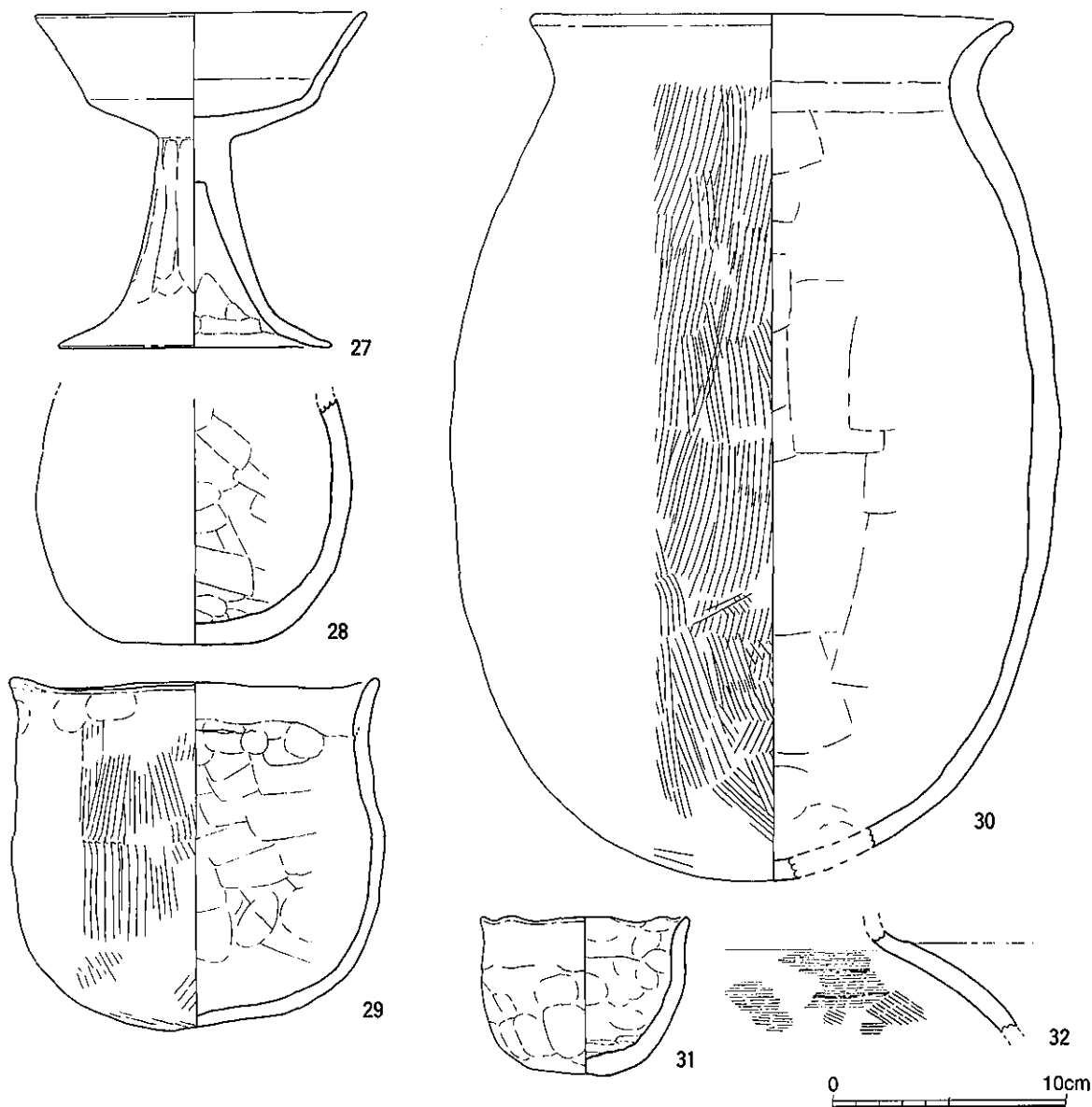
こうして2次調査地では竪穴住居跡1軒・窯跡1基が確認された。整理作業にあたっては混乱を避けるため、1号とした遺構をSB01、2号とした遺構をそのまま2号窯跡として取り扱った。2つの遺構からは須恵器・土師器が多量に出土し、パンケース5箱分である。なお区画整理事業地外であるが、仙道ヶ浦中池に面した南側斜面に窯体の露出が認められる。焚口は池の浸食により大きく削られているが、幅約2m位の窯跡で周辺に散布している須恵器はⅣ期(註1)のものである。

## B. 遺構と遺物

### SB01(第6図、図版1～2)

調査区の東側において検出された。平面プランは所々崩れているが長方形を呈し、長辺約6.10m、短辺約4.40m、検出面からの深さ約30～50cmを測る。竪穴内において竈や炉・壁溝等の住居内施設は発見されなかったが、床面からの深さ約25～40cmの4つの柱穴を確認することができた。住居跡北側側壁は、地山面と遺構内埋土の土色の違いが判断できず大幅に掘削してしまった。





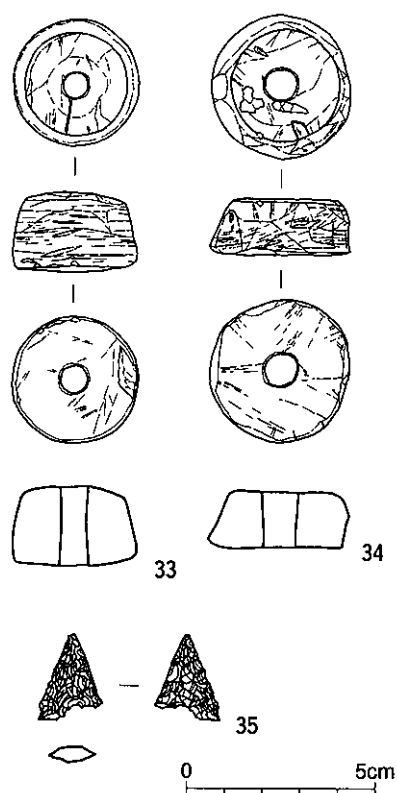
第10図 2次SB01出土遺物実測図④(1/3)

#### 出土遺物(第7～11図・図版7～11、13・14)

出土遺物はA-A'面とB-B'面を結んでできる4つの区画のうち、北東側を1区、北西側を2区、南東側を3区、南西側を4区とした。また埋土は土層実測時には12層に分層したが、遺物取り上げは1～6層を上層(黒褐色土)、7～12層を下層(暗灰色土・淡灰色)とした。

#### 須恵器(1～26)

1～5・21は杯蓋。1～5は口径10.9～12.0cm、器高3.2～4.0cm。いずれも完形に近いが、3・5は焼成の際に生じた破裂痕を残している。天井部外面のヘラ削りの範囲は狭いもの(1・2・5)とやや広いもの(3・4)があり、2～5にはヘラ記号が認められるがいずれも異なる種類である。21はつまみのつくもので生焼けであり、隣接する2号窯跡のものが流入したものであろう。6～13・21は杯身。6～13は口径10.2～10.9cmでほぼ同大であり、立ち上がりはやや短く、内傾した後に端部で直立する。受部は外方にのびるものと(9)外上方へのびるものがある。底部は比較的深く、丸みを



第11図 2次SB01出土遺物  
実測図⑤(1/2)

もち、底部外面にヘラ記号をもつものがある(6~10)。  
6・7の口縁端部には細かな剥離痕がみられ、使用痕かと推測される。14・15は高杯。いずれも脚部のみの残存である。14は脚部中位に一条の沈線を螺旋状に巡らし、2条に見えるように仕上げている。15は中位に浅い沈線を2条巡らせる。16~18は碗。いずれも体部上半にカキ目を施す。17は底部が回転ヘラ削りにより丸く仕上げられ、ヘラ記号が認められる。18は著しく焼け歪んでおり、内外面とも自然釉がかかり、内底面には窯壁屑の釉着が認められる。底部は回転ヘラ削りを施すが、平底となり、ヘラ記号を有する。19は平瓶。小振りのもので完形に近いが、体部外面にクレーター状の破裂痕が認められる。2次焼成を受けたのであろうか。体部上面には輪状の小さな把手を有し、体部上半から中位下にかけてはカキ目、底部は回転ヘラ削りで丸底気味に仕上げられる。20は台付長頸壺。口頸部は失われているが、基部は太く、体部は中位よりやや上に最大径をとる。脚部はハの字に開き、脚端部は外反する。体部外面は全面カキ目を施した後、沈線を巡らせており、自然釉

がかかる。23・24は蓋。いずれもかえりを有し、つまみの中央部はややくぼんでいる。23は焼け歪みがあるが完形。天井部はヘラ削りを施し、かえりは長く口縁端部より下にでている。24は天井部1/2をカキ目、内面には同心円文当て具痕が認められる。かえりは短い。どのような器種に伴うか不明である。25・26は甕。いずれも大型の甕。25は口縁部の破片で、頸部は外方にのびた後外反する。外面には沈線を3段にわたって巡らせるが、その間は無文である。26は底部から体部にかけての破片。外面格子目タタキ、内面同心円文当て具痕。

#### 土師器(27~32)

27は高杯。ほぼ完形である。脚部は長脚で、裾部は大きく外反する。杯部は屈曲し、口縁部にかけてやや外反する。28~30は甕。28・29は小型のもので、丸底。内面ヘラ削り、外面粗いタテハケ。30は長胴のもので、底部丸底。外面粗いタテハケ、内面ヘラ削り。口縁部は外方へ開いた後、やや外反する。31は鉢。外面ナデ、内面ナデで底部は一部ヘラ削り。32は小片のため全形が不明であるが、壺か?内面はハケメが認められる。

#### 石製品(33~35)

33・34は紡錘車。いずれも滑石製で、粗い研磨痕が残る。35は石鏃。黒曜石製。脚部を欠損しているが、基部の挟りこみは深い。

## 2号窯跡（第12図、図版2～4）

調査区の西側において検出された。窯体残存長はB-B'軸上の焚口～排煙部まで3.32mを測り、主軸はN-29.5°-Wを振る。平面プランは、焚口・燃烧部はほぼ一定の幅を保ち、焼成部は上位において最大幅を測る胴張り型を呈し、排煙部はやや突出している。残存状況は悪く、天井部は全て崩れ落ちており、窯体内の床面直上に多量の窯壁片が堆積していた。壁面・床面では淡黄色～淡赤色の被熱状態が観察でき、還元部分（淡白灰色）は焚口・燃烧部側壁面のみに見られる。また、貼壁、貼床の痕跡はなかった。

**焚口・燃烧部** 幅は焚口で1.00mを測り、焼成部との境で1.10mに広がる。燃烧部の長さはB-B'軸上で1.02m、床面傾斜度は約8°を測る。側壁では厚さ1cm程の還元部分（淡白灰色）が確認できるが、西側壁と東側壁の還元範囲に大きな差があり、東側壁は焚口付近でしか見られない。燃烧部内の堆積土は、床面直上に黒色土層（13層）が見られ、少量の炭が含まれていた。

**焼成部** 幅は燃烧部との境から大きく広がり、焼成部上位で最大幅1.44mを測る。焼成部の長さはB-B'軸上で230cm、床面傾斜度約23°を測る。床面には深さ約5～10cmほどある小さな窪みが11個検出され、不規則に配置されている。壁面・床面は淡黄色に被熱しているが、窪み部分では観察できない。焼成部内の堆積土は、床面直上に多量の窯壁片が含まれていた。

**排煙部** 奥壁を幅0.58m、奥行き0.26mの縦の溝状に掘り込み、排煙部を造り出している。平面プランは不整形な半円形を呈し、床面から高さ34cmまで残存していた。床面傾斜度は約23°を測る。壁面は淡黄色に被熱しているが、床面は被熱していない。

**前庭部** 平面プランは窯体の両側に大きく広がる不整形な方形を呈し、前庭部北西側は階段状に掘られている。南北最大長は2.66m、東西最大長は5.06m、床面傾斜度は約6°を測る。床面では多少の凹凸が見られたが、前庭部に伴う遺構は見られなかった。

**灰原** 最大南北長2.98m、最大東西幅5.1mの不定形な広がり呈す。埋土は約20cm程度堆積しており、遺物は黄色系を呈する1・2層（黄褐色土）を上層、黒色系を呈するそれ以下の層（黒色土・黒褐色土）を下層として取り上げた。

## 出土遺物（第13・14図、図版10・11）

遺物は窯体内を層別に取り上げ、灰原は北東側を1区、北西側を2区、南東側を3区、南西側を4区とし、層ごとにて取り上げをおこなった。また、36・37は窯体内埋土上層、38は下層から出土。39～53は灰原出土、54～56は灰原周辺で表採されたものである。

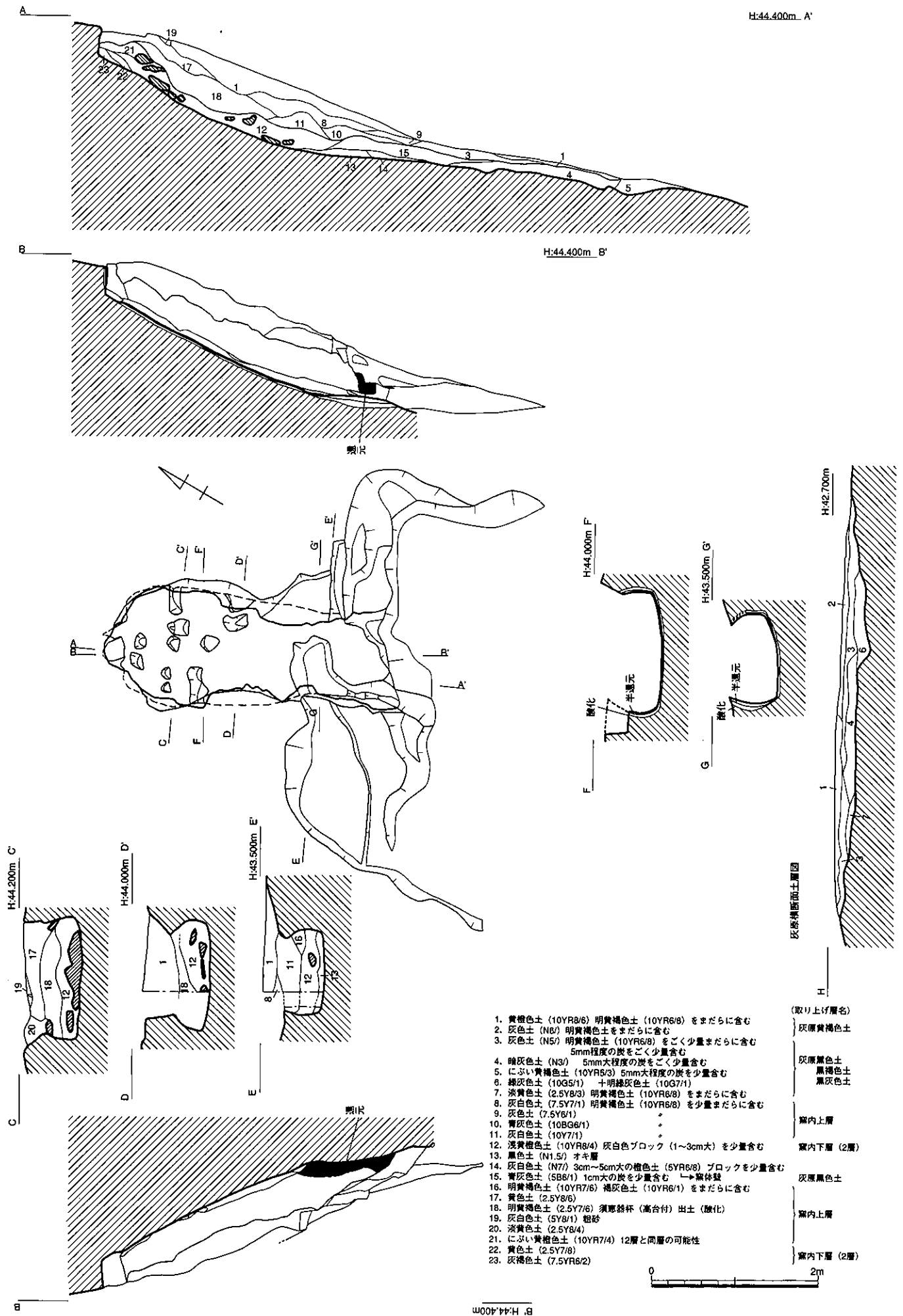
### 土師器（36）

36は杯d。窯体内埋土上層からの出土である。体部外面にミガキが施され、口縁部の一部を欠損するが完形品に近い。井手24号窯跡においても灰原からの出土例がある。

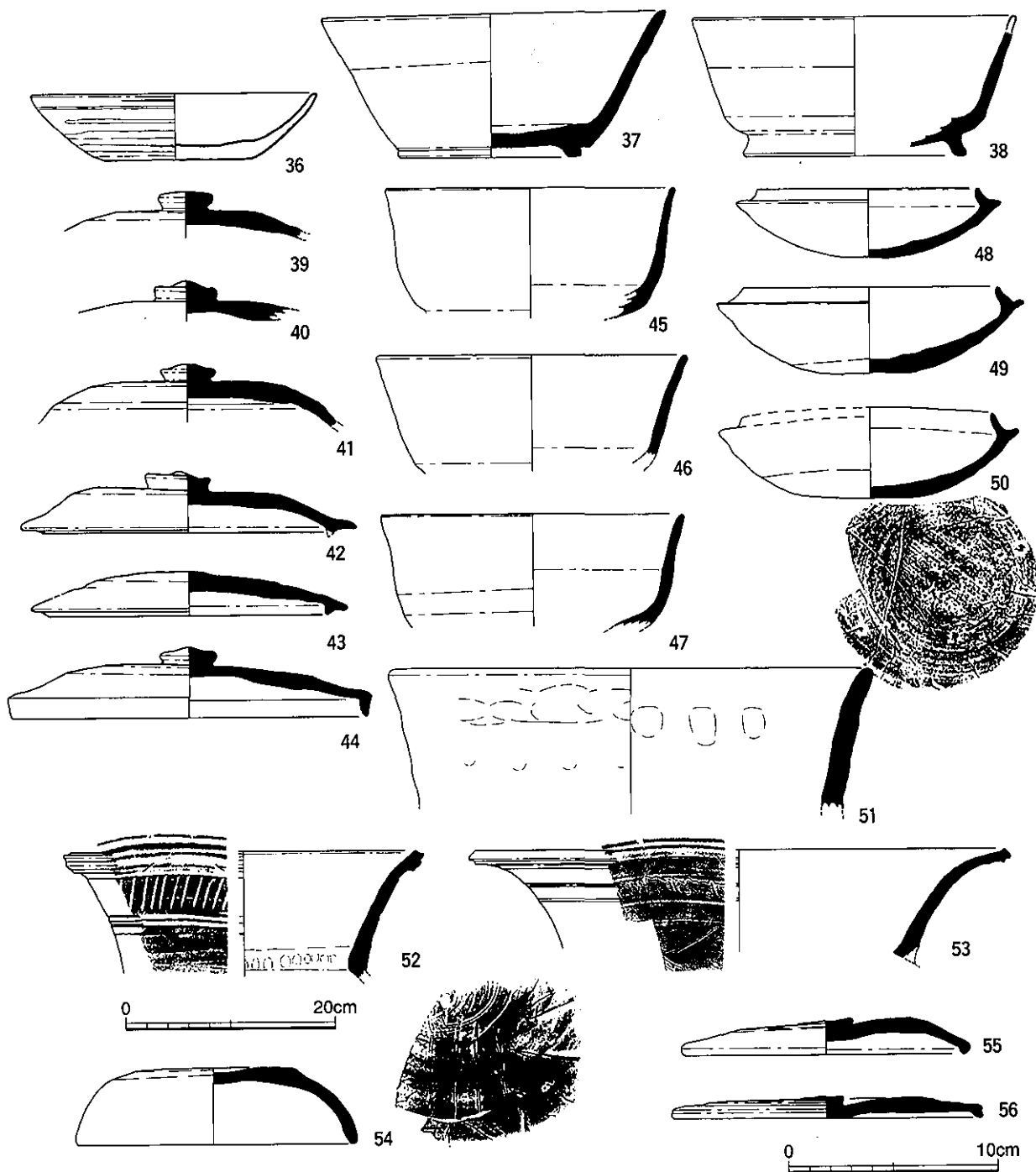
### 須恵器（39～56）

39～44、54～56は杯蓋。39～43はつまみがないものもあるが、いずれもつまみの中央部が盛り上がる山形を呈する。胎土は灰白色を呈し、焼成不良である。このため遺物の残りが悪く、全形が復元できるのは42しかない。42は天井部が高く丸みを持ち、径3cmほどのつまみを持ち、短いかえりがつく。



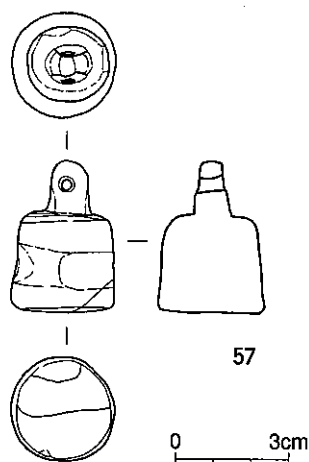


第12図 2次2号窟跡実測図 (1/60)



第13図 2次2号窯跡出土遺物実測図① (1/3・1/6)

43はつまみの痕跡が認められない。44はやや焼成不良で、胎土は橙色を呈する。天井部は高く丸みを持ち、口縁端部は折り曲げ長く下方にのび、口径16.7cm、精良な作りである。54～56はいずれも焼成良好である。54は古墳時代の杯蓋で、SB01のものが混入したと考えられる。天井部外面にヘラ記号が認められる。55・56は天井部は低く平らで、極めて扁平なつまみを持ち、口縁端部は短く下方へ折り曲げられる。37・38、45～50は杯身。37は橙色を呈し、ほぼ完形に復元される。杯部は深く、口縁部は外上方にのびる。底部は平らになり、体部との境よりやや内側に低い高台をつける。38・45～47はいずれも橙色を呈し、焼成中に弾けているため底部を失うが、丸みを持つ形態のようである。いず



第14図 2次2号窯跡出土遺物  
実測図②(1/2)

れも杯部は深く、38はハの字に開くやや高い高台をつける。48～50は古墳時代の杯身、SB01のものが混入したものと考えられる。立ち上がりは短く、内傾する。50の底部外面には、ヘラ記号と板状圧痕が認められる。51は甑もしくは鉢。小片であるが直径22.6cmに復元される。52・53は甕。いずれも口縁部のみの破片である。52は沈線を2段巡らせ、その間には連続斜線文をほどこす。53は口縁部に向かって大きく外反し、沈線を2段にわたって巡らせ、その間に粗雑な波状文を巡らせる。

土製品 (57)

57は権状製品である。手づくねにより成形される。土師質で、底面には黒斑が残る。釣鐘形の体部に小指先状のつまみをつけ、横方向に孔が穿たれている。

### C. 小結

調査地は、仙道ヶ浦下池に面する丘陵の南側斜面に位置する。検出された遺構は、竪穴住居跡1軒・窯跡1基であった。SB01から出土した遺物のうち、須恵器はⅣA期、土師器は長胴化した甕の存在から柳田編年Ⅶ式(註2)にあてられる。両者の年代観については大きな矛盾はなく、周辺に窯跡以外の遺構が認められないことから須恵器・土師器のセット関係を知る上で良好な資料である。

2号窯跡出土遺物は、3つの時期のものが混じっている。一つは48～50・52～54のようにSB01から混入したと考えられる、ⅣA期の須恵器の一群。一つは38～47のようにかえりをもつ杯蓋と底部の丸くなる杯身などのⅥ期の須恵器の一群。一つは37・55・56のようにⅦ期の須恵器の一群と36のような土師器がある。36は中島恒次郎氏分類杯d3類(註3)にあたる。窯跡の時期としてはⅥ・Ⅶ期いずれかということになるが、焼成不良のものや弾けたものがⅥ期の一群にしか認められず、窯での焼成失敗品と考えられることから、2号窯跡はⅥ期に位置付けたい。

Ⅶ期の遺構に関しては、調査区内には認めることができない。Ⅶ期の遺物は完形に近いものが多く、37は杯部が深く高台が外よりにつけられることから大宰府史跡SE400例(註4)に近似している。既に削平された丘陵頂部に遺構が存在した可能性はあるが、現状では不明である。

註1 時期に関して、特に断りがない限り須恵器は小田富士雄氏の編年観を用いる。また表記において、須恵器は○期とし、須恵器以外の遺物に関しては用いた編年作成者の名前を冠する。

註2 柳田康雄「2土師器の編年 2九州」『古墳時代の研究』6 雄山閣(1991)

註3 中島恒次郎「都へ行った土器」『古文化談叢』第28集 九州古文化研究会(1992)

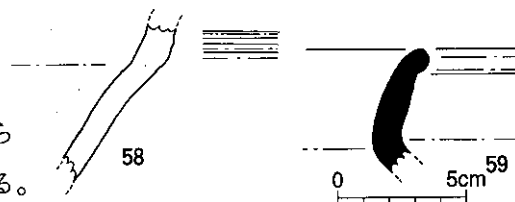
註4 横田賢次郎「大宰府出土の土師器に関する覚書き(3)」『九州歴史資料館研究論集』5(1979)



## 2. 第3次調査

### A. 調査概要（第15図、図版5）

第3次調査地は、現在仙道ヶ浦中池となる大きな谷から北側へ入り込んだ小谷に面した丘陵の東側斜面に所在する。



大野城市大字上大利602-1の一部にあたり、調査面積は 第18図 3次調査出土遺物実測図（1/3）  
1145.7㎡である。丘陵の頂部は春日市平田台であり、すでに削平され宅地化が終了した所である。ここは春日平田東窯跡の調査が行われ、6世紀末から7世紀初頭の窯跡1基が確認されている（註1）。

発掘調査をおこなった斜面は旧状をよく残していたが、調査区より北側は内山緑地による開墾のため斜面部がほとんど失われていた。表土剥ぎの結果、土坑3基が検出された。遺物は縄文土器・須恵器・土師器が出土したが、小片少量であった。

### B. 遺構と遺物

#### SX01（第16図、図版5・6）

平面形は長さ0.79×幅1.1mの略長方形プランで、斜面に対して横長に作られる。床面は水平で、斜面上方から床面までの深さは42cm、土坑の断面形はL字型となる。遺物の出土はなかった。

#### SX02（第17図、図版6）

平面形は不整形であるが、長さ3.96×幅2.70mの楕円形プランを呈する。床面は水平で、斜面上方から床面までの深さは2.82mで、土坑の断面形は逆台形状となる。遺物の出土はなかった。

#### SX03（第16図、図版6）

平面形は略円形プランで、長さ1.78×幅1.98mである。床面は斜面下方に向かって若干下がっており、深さは48cm、土坑の断面形は箱型となる。土師器が出土したが、小片少量であった。

遺構以外の出土遺物（第18図、図版12）

#### 縄文土器

深鉢（58） 全景写真撮影時の清掃の際に出土した。口縁部から頸部にかけての小片で、口縁部外面には沈線が2条確認できる。

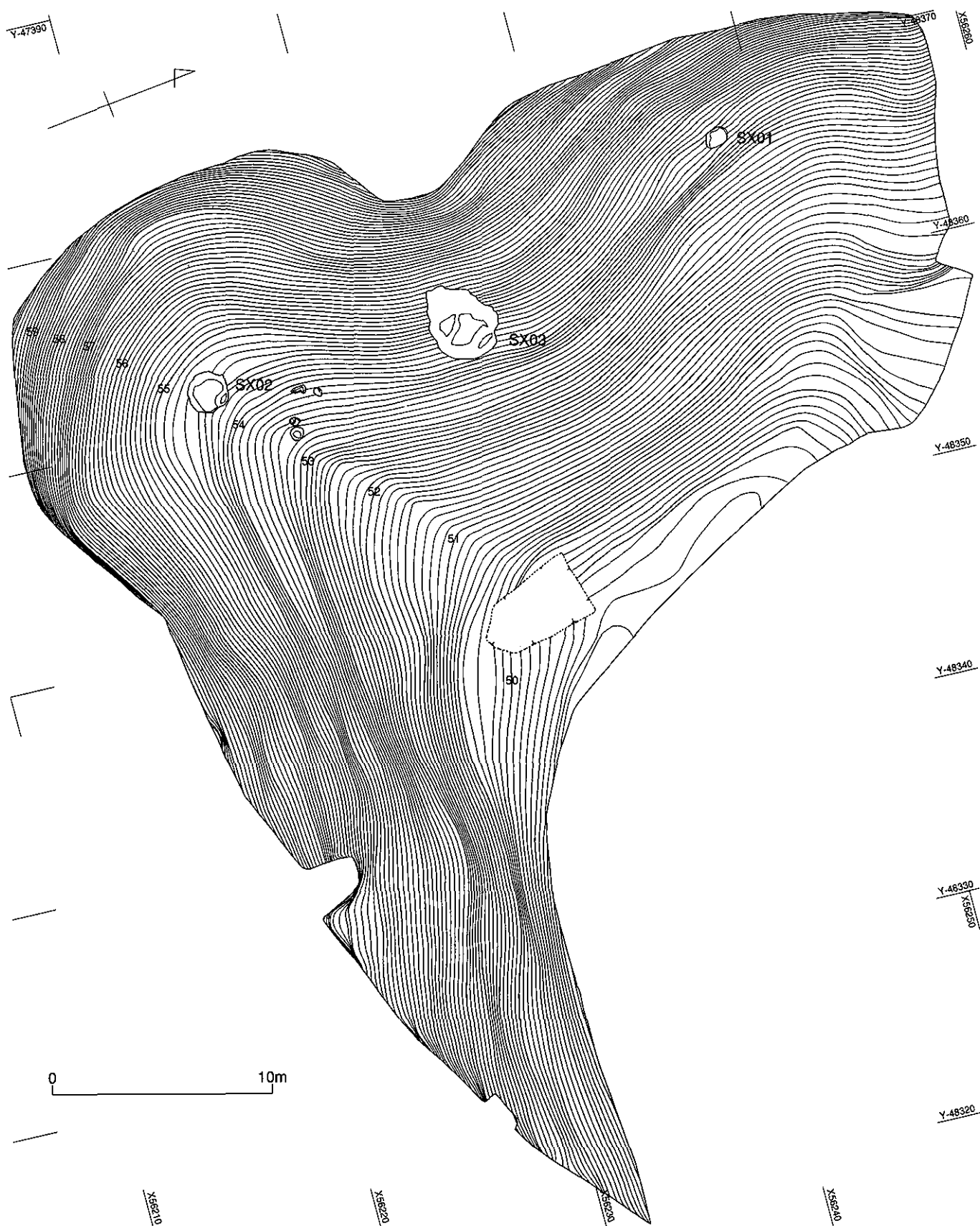
#### 須恵器

甕（59） 調査区中央にある谷の下方に設定したトレンチより出土した。黒褐色土の広がりがあり掘り下げを行ったが、遺構ではなく谷の堆積土と考えられる。口縁部のみの小片である。

### C. 小結

調査区内の遺構は少なかったが、遺物の中に小片とはいえ縄文土器が出土したことは評価される。縄文時代後期末の所産と思われ、周辺では黒曜石製の石鏃が散発的に出土するものの、土器が出土することは少なく時期を推定するのに貴重な資料となった。また斜面下方の谷部から須恵器の甕片が出土することから、SX03も古墳時代以降のものと推測できるが判断できる根拠に欠けている。また土坑の性格については、検出された3基とも大きさや形がバラバラであり、遺物もないことから不明とせざるをえない。

註1 平田定幸『春日地区遺跡群Ⅵ』春日市文化財調査報告書第21集（1991）



第15図 3次調査地地形測量図 (1/250)



表1 牛頸野添遺跡群2・3次調査出土遺物観察表1

## 野添遺跡2次調査

| 遺物番号 | 種類  | 器種    | 出土地点                                | 法量cm①口径②器高③底径④最大径                | 形態・技法の特徴                                         | A胎土 B焼成 C色調                                                                   | 備 考                          |
|------|-----|-------|-------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 1    | 須恵器 | 杯蓋    | SB01 3区黒褐色土                         | ①10.9 ②8.75                      | 外面1/3回転ヘラ削り、内面1/3不定方向のナデ、他は回転ナデ。                 | A精良。径1～4mmの白色砂礫を少し含む。B良好C内外黒褐色10Y R 3/1                                       | ヘラ記号有り。                      |
| 2    | 〃   | 〃     | SB01 3区黒褐色土<br>〃 暗灰色土<br>2号底跡灰原滑時検出 | ①11.25 ②4.0                      | 外面2/5回転ヘラ削り、内面1/4不定方向のナデ、他は回転ナデ。                 | A精良。径1～2mmの白色粗砂や黒色粒子を少し含む。B良好C外暗緑灰色7.5GY 3/1、内灰色N 5/～N 6/                     | ヘラ記号有り。                      |
| 3    | 〃   | 〃     | SB01 3区暗灰色土<br>〃 黒褐色土<br>1区黒褐色土     | ①12.1 ②8.2                       | 外面1/2回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ。                 | A精良。径1～2mmの白色粗砂や黒色粒子を少し含む。B良好C内外灰色N 5/                                        | ヘラ記号有り。口縁部の半周分はクレーター状に弾けている。 |
| 4    | 〃   | 〃     | SB01 3区黒褐色土<br>〃 暗灰色土<br>2区黒褐色土     | ①11.6 ②3.3                       | 外面1/2回転ヘラ削り、内面1/3不定方向のナデ、他は回転ナデ。                 | A精良。径3mm位の白色砂礫や黒色粒子を多く含む。B良好C外オリブ灰色2.5GY 5/1～暗オリブ灰色2.5GY 3/1、内灰色N 6/～N 5/     | ヘラ記号有り。                      |
| 5    | 〃   | 〃     | SB01 3区黒褐色土                         | ①12.0 ②(4.0)                     | 外面1/2回転ヘラ削り、内面1/3不定方向のナデ、他は回転ナデ。                 | A精良。径1～2mmの白色粗砂を若干含む。B良好C内外灰色N 5/～N 4/                                        | ヘラ記号有り。天井部外面弾ける。             |
| 6    | 〃   | 杯身    | SB01 3区黒褐色土<br>〃 暗灰色土               | ①10.4 ②8.9<br>受部径12.3            | 外面2/5回転ヘラ削り、内面1/3不定方向のナデ、他は回転ナデ。                 | A精良。径1～2mmの白色粗砂や黒色粒子を若干含む。B良好C外灰白色N 7/～灰色10Y 5/1、内灰色N 6/                      | ヘラ記号有り。口縁端部に使用痕有り。自然釉が一部付着。  |
| 7    | 〃   | 〃     | SB01 3区暗灰色土<br>〃 黒褐色土               | ①12.6 ②4.0<br>受部径12.6            | 外面1/2回転ヘラ削り、内面1/4不定方向のナデ、他は回転ナデ。                 | A精良。径1～2mmの白色粗砂や黒色粒子を少し含む。B良好C外灰白色N 7/、内灰色N 6/                                | ヘラ記号有り。口縁端部に使用痕有り。           |
| 8    | 〃   | 〃     | SB01 3区黒褐色土                         | ①10.2 ②4.2<br>受部径12.6            | 外面2/3回転ヘラ削り、内面3/4不定方向のナデ、他は回転ナデ。                 | A精良。径1mmの白色粗砂や黒色粒子を少し含む。B良好C外灰白色10Y R 7/1～N 7/、内灰色N 6/                        | ヘラ記号有り。                      |
| 9    | 〃   | 〃     | SB01 1区暗灰色土<br>〃 黒褐色土               | ①10.95 ②3.8<br>受部径12.8           | 外面1/2回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ。                 | A精良。径1～3mmの白色砂礫や黒色粒子を若干含む。B良好C内外灰白色10Y R 7/1～灰色N 6/                           |                              |
| 10   | 〃   | 〃     | SB01 3区黒褐色土                         | ①10.9 ②3.6<br>受部径12.5            | 外面3/5回転ヘラ削り、内面1/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。                 | A精良。径1～2mmの白色粗砂を少し含む。B不良C外にぶい橙色7.5Y R 6/4、内橙色7.5Y R 7/6                       | ヘラ記号有り。                      |
| 11   | 〃   | 〃     | SB01 3区褐色土<br>〃 暗灰色土                | ①10.7 ②3.5<br>受部径(12.5)          | 外面3/5回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ。                 | A精良。径1mmの白色粗砂や黒色粒子を若干含む。B良好C内外灰色N 6/～灰白色N 7/                                  | ヘラ記号有り。                      |
| 12   | 〃   | 〃     | SB01 3区黒褐色土<br>〃 暗灰色土               | ①10.2 ②3.65<br>受部径11.8～12.6      | 外面2/5回転ヘラ削り、内面2/7不定方向のナデ、他は回転ナデ。                 | A精良。径1～2mmの白色粗砂や黒色粒子を若干含む。B良好C外灰色10Y 4/1内暗灰色N 3/～オリブ黒色10Y 3/1                 | 焼けひずみあり。                     |
| 13   | 〃   | 〃     | SB01 3区黒褐色土<br>〃 暗灰色土               | ①(11.1) ②3.7<br>受部径13.1          | 外面2/5回転ヘラ削り、内面2/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。                 | A精良。径1～4mmの白色粗砂を少し含む。B不良C内外浅黄褐色7.5Y R 8/4～にぶい橙色7.5Y R 7/4                     |                              |
| 14   | 〃   | 高杯    | SB01 3区黒褐色土                         | 脚端径9.05                          | 脚部外面上半2/3カキメ、沈線1周半巡らせる、他は回転ナデ。                   | A精良。径1～4mmの白色粗砂や黒色粒子を若干多く含む。B良好C外灰色N 7/～明褐色7.5Y R 7/1、内暗灰色N 3/                | シボリ痕あり。                      |
| 15   | 〃   | 〃     | SB01 3区黒褐色土                         |                                  | 外面回転ナデ、沈線2条あり、内面回転ナデ。杯部内面不定方向のナデ。                | A精良。径1～3mmの白色砂礫や黒色粒子を少し含む。B中C内外灰白色10Y R 7/1～灰色N 6/                            | 脚部内面ヘラ記号有り。                  |
| 16   | 〃   | 碗     | SB01 3区黒褐色土                         | ①(11.1)                          | 残存部外面はカキメ後沈線、内面回転ナデ。                             | A精良。径1mmの白色粗砂を若干含む。B不良C内外灰白色10Y R 8/1～8/2                                     |                              |
| 17   | 〃   | 〃     | SB01 付近表探                           | ①(10.2) ②(5.9)                   | 底部外面回転ヘラ削り、底部外面カキメ、内面1/2不定方向のナデ、他回転ナデ。           | A精良。径1～3mmの白色砂礫や黒褐色粒子を少し含む。Bやや不良C内外褐色10Y R 6/1～灰白色10Y R 7/1                   | 底部外面ヘラ記号有り。                  |
| 18   | 〃   | 〃     | SB01 3区黒褐色土<br>〃 暗灰色土               | ①13.55 ②6.85<br>③11.4            | 底部内外は回転ナデ、外面に沈線2条、底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。             | A精良。径1～2mmの白色粗砂や半透明灰色粒子、黒色粒子を少し含む。B良好C内外灰白色N 7/～灰色N 6/                        | ヘラ記号有り。焼けひずみあり。自然釉が部分的に付着。   |
| 19   | 〃   | 平瓶    | SB01 3区黒褐色土<br>〃 暗灰色土               | ①(5.8) ②10.8<br>④12.25           | 口縁部内外回転ナデ、胴部外面は上半3/4カキメ、下半1/4回転ヘラ削り、内面回転ナデ。      | A精良。径1～4mmの白色砂礫、黒色粒子を少し含む。B良好C外灰色N 6/～N 5/、内灰白色N 7/～灰色N 6/                    | 内外面とも器壁がクレーター状に弾ける。          |
| 20   | 〃   | 台付長頸壺 | SB01 3区暗灰色土<br>〃 黒褐色土<br>1区         | ③8.2 ④14.1                       | 底部外面カキメ、内面は回転ナデ、台部は内外面とも回転ナデ。                    | A精良。径1～4mmの白色粗砂や黒色粒子を少し含む。B良好C外灰白色N 7/、灰黄褐色10Y R 4/2～黒色10Y R 2/1、内褐色10Y R 6/1 |                              |
| 21   | 〃   | 杯蓋    | SB01 2区黒褐色土                         | ①(15.4) ②1.7つまみ<br>後2.5つまみ高0.5   | 全面磨滅して調整不明。                                      | A精良。径0.5mmの白色粗砂を少し含む。B不良C内外灰白色7.5Y R 8/2～浅黄褐色7.5Y R 8/6                       |                              |
| 22   | 〃   | 杯身    | SB01 2区黒褐色土                         | ③(10.0)                          | 底部は内外ともナデ。高台部回転ナデ。                               | A精良。径1mmの白色粗砂や黒色粒子を少し含む。Bやや不良C内外灰白色10Y R 7/1～にぶい黄褐色10Y R 6/3                  |                              |
| 23   | 〃   | 蓋     | SB01 3区黒褐色土                         | ①8.1～9.3 ②3.5つまみ<br>後1.8つまみ高0.55 | 外面3/4回転ヘラ削り、内面1/3不定方向のナデ、他は回転ナデ。                 | A精良。径1～3mmの白色砂礫や黒色粒子を少し含む。B良好C内外灰白色N 7/～灰色N 5/                                | 完形品。大きく焼け歪む。                 |
| 24   | 〃   | 〃     | SB01 3区暗灰色土<br>〃 黒褐色土<br>付近表探       | ①22.8 ②3.9                       | 外面5/6カキメ、内面1/2当て具痕、他は回転ナデ。                       | A精良。径1～5mmの白色砂礫を若干多く含む。B良好C外褐色7.5Y R 5/1、内褐色7.5Y R 6/2～にぶい褐色7.5Y R 6/3        | 内面の当て具痕(同心円文)は環状に残っている。      |
| 25   | 〃   | 壺     | SB01 4区黒褐色土<br>〃 暗灰色土<br>3区黒褐色土     | ①(40.5)                          | 口縁部内外面回転ナデ、一部カキメ?                                | A精良。径1～4mmの白色砂礫を少し含む。B良好C外黒褐色10Y R 3/1、内褐色10Y R 4/1～黒褐色10Y R 3/1              | 沈線4条有り。                      |
| 26   | 〃   | 〃     | SB01 1～3区黒褐色土<br>〃 2区黒褐色土<br>付近表探   |                                  | 外面格子目タタキ(一部カキメ有り)、内面同心円文当て具痕。                    | A精良。径1～2mmの白色・褐色粗砂を含む。B良好C外黒色7.5Y R 1.7/1～N 2/、内褐色7.5Y R 4/1                  |                              |
| 27   | 土師器 | 高杯    | SB01 3区黒褐色土<br>〃 淡灰色土               | ①13.9 ②1.4<br>脚部径11.6            | 脚部外面上半2/3タタキガキ、内面上半3/4ヨコヘラ削り、杯底部内面は不定方向のナデ、他はナデ。 | A精良。径1mmの白色粗砂を少し含む。B良好C内外褐色7.5Y R 7/6～黄褐色7.5Y R 7/8、杯内浅黄褐色7.5Y R 8/3～8/4      |                              |
| 28   | 〃   | 甕     | SB01 2区暗灰色土                         | ③5.2 ④13.4                       | 胴部残存部は外面ナデ、内面雑なヘラ削り。                             | A良好。径1～5mmの白色砂礫を多く含む。B良好C内外褐色5Y R 6/8～にぶい褐色5Y R 6/4                           |                              |
| 29   | 〃   | 〃     | SB01 2区暗灰色土<br>〃 黒褐色土               | ①15.3 ②15.2 ④15.8                | 口縁部ナデ、外面2/3粗いタテハケ、内面雑なヘラ削り、内外面下半1/3ナデ。           | A良好。径1～4mmの白色砂礫を若干多く含む。B中C内外褐色7.5Y R 6/8～にぶい褐色7.5Y R 7/4                      | 外面タタキか?                      |
| 30   | 〃   | 〃     | SB01 2区暗灰色土<br>〃 4区<br>〃 1～3区黒褐色土   | ①20.0 ②37.5 ④26.0                | 口縁部内外ナデ、外面粗いタテハケ、底部ナデ、内面雑なヘラ削り、底部ナデ。             | A良好。径1～5mmの白色砂礫を多く含む。B中C内外褐色7.5Y R 6/6～灰褐色7.5Y R 6/2                          | 底部外面黒斑あり。                    |



表2 牛頸野添遺跡群2・3次調査出土遺物観察表2

|    |     |      |                                       |                                  |                                           |                                                                                   |                       |
|----|-----|------|---------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 31 | 鉢   | 鉢    | SB01 1区黒褐色土                           | ①8.7 ②6.85                       | 内外面ナデ、底部外面一部ヘラ削り。                         | A良好。径1～5mmの白色砂礫を少し含む。B良好C内外褐色7.5YR 6/8～にぶい褐色7.5YR 7/4                             | 底部外面に黒斑有り。            |
| 32 | 壺?  | 壺?   | SB01 4区黒褐色土<br>暗灰色土<br>3区黒褐色土         |                                  | 外面調整は不明、内面ハケか?                            | A粗。径1～2mmの白色・褐色粗砂を多く含む。Bやや不良C内外褐色5YR 7/8～6/8                                      |                       |
| 33 | 石製品 | 紡錘車  | SB01 4区黒褐色土                           | ②2.1 最大幅3.3<br>孔径0.7～0.8         | 側面に研磨痕残る。                                 | C暗灰色                                                                              | 滑石製、滑らかである。           |
| 34 | 石製品 | 紡錘車  | SB01 4区黒褐色土                           | ②1.5 最大幅3.8<br>孔径0.85～0.95       | 側面に研磨痕残る。                                 | C灰色(淡茶赤色部分混じる)                                                                    | 滑石製、滑らかである。           |
| 35 | 石製品 | 石鏡   | SB01 1区黒褐色土                           | 厚さ0.4                            |                                           |                                                                                   | 黒曜石製                  |
| 36 | 土師器 | 杯    | 2号窯跡窯内上層                              | ①13.4 ②3.2 ③7.0                  | 体部外面は回転ナデ後雑な回転ミガキ、底部外面を回転ヘラ削り、内面増減して調整不明。 | A精良。径1～2mmの白色粗砂を少し含む。B不良C外にぶい褐色7.5YR 6/3～褐色7.5YR 7/6、内にぶい褐色7.5YR 6/4～黄褐色7.5YR 7/8 | 杯d                    |
| 37 | 須恵器 | 杯身   | 窯内上層                                  | ①16.0 ②7.0<br>高台径8.6             | 体部内面回転ナデ、底部内外不定方向のナデ。                     | A精良。径1～2mmの白色粗砂を少し含む。B不良C内外褐色7.5YR 7/6～黄褐色7.5YR 7/8                               |                       |
| 38 | 須恵器 | 杯身   | 窯内2層                                  | ①(15.2)<br>②6.7高台径(10.3)         | 体部・高台部ともに回転ナデ。                            | A精良。径1～4mmの白色砂礫、黒色粒子などを少し含む。B不良C内外褐色5YR 6/6～6/8                                   |                       |
| 39 | 須恵器 | 杯蓋   | 灰原4区黒色土                               | つまみ径2.6<br>つまみ高0.8               | 全体に増減して調整不明。                              | A精良。径1～3mmの白色砂礫を少し含む。B不良C外灰白色10YR 7/1、内にぶい黄褐色10YR 7/3～7/4                         |                       |
| 40 | 須恵器 | 杯蓋   | 灰原3区黒色土                               | つまみ径2.6<br>つまみ高0.9               | 全体に増減して調整不明。                              | A精良。径1～4mmの白色砂礫を少し含む。B不良C外にぶい黄褐色10YR 7/2～7/3、内灰白色10YR 8/1                         |                       |
| 41 | 須恵器 | 杯蓋   | 灰原3区黒色土                               | つまみ径2.6<br>つまみ高0.9               | 天井部外面回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他回転ナデ。              | A精良。径1～4mmの白色砂礫を多く含む。Bやや不良C外灰褐色7.5YR 5/2～にぶい褐色7.5YR 5/4、内褐色7.5YR 6/1              |                       |
| 42 | 須恵器 | 杯蓋   | 灰原4区黒色土                               | ①(13.6) つまみ径3.1<br>つまみ高1.0       | 外面3/5回転ヘラ削り、他は増減して調整不明。                   | A精良。径1～2mmの白色粗砂を少し含む。B不良C外にぶい黄褐色10YR 7/2～褐色7.5YR 6/6、内灰白色10YR 7/1                 |                       |
| 43 | 須恵器 | 杯蓋   | 灰原3区黒色土                               | ①13.2 ②2.15                      | 外面3/5回転ヘラ削り、端部2/5内外回転ナデ、他は増減して調整不明。       | A精良。径1～2mmの白色粗砂や黒色粒子を少し含む。B不良C内外灰白色10YR 7/1～にぶい黄褐色10YR 7/2                        | つまみなし?                |
| 44 | 須恵器 | 杯蓋   | 灰原4区黒色土                               | ①(16.7) ②3.4つまみ<br>径2.7 つまみ高1.0  | 外面3/5回転ヘラ削り、内面2/3不定方向のナデ、他回転ナデ。           | A精良。径1～5mmの白色粗砂を少し含む。B不良C内外灰白色7.5YR 8/2～浅黄褐色7.5YR 8/6                             |                       |
| 45 | 須恵器 | 杯身   | 灰原1区13層                               | ①(13.8)                          | 体部内外回転ナデ。                                 | A精良。径1～2mmの白色粗砂や黒褐色粒子などを少し含む。B不良C外褐色5YR 7/6～褐色7.5YR 5/1、内褐色7.5YR 7/6              | 高台部は焼成時に破裂。           |
| 46 | 須恵器 | 杯身   | 灰原1区13層                               | ①14.5                            | 体部内外回転ナデ。                                 | A精良。径1～3mmの白色粗砂を含む。B不良C内外褐色5YR 7/8～6/8                                            | 高台部は焼成時に破裂。           |
| 47 | 須恵器 | 杯身   | 灰原1区                                  | ①14.2 ②5.3                       | 体部内外回転ナデ。                                 | A精良。径1～2mmの白色粗砂を含む。B不良C内外浅黄褐色7.5YR 8/3～褐色7.5YR 7/6                                | 高台部は焼成時に破裂。           |
| 48 | 須恵器 | 杯蓋   | 灰原1区黒褐色土<br>灰原2区黒褐色土                  | ①(10.5) ②3.35<br>受部径12.5         | 外面調整不明。内面1/3不定方向のナデ、他は回転ナデ。               | A精良。径1～2mmの黒色粒子を若干含む。B良好C外灰白色10YR 7/1～褐色10YR 5/1、内青灰色5B 6/1                       | 重ね焼き時の杯蓋端部片粘着。外面灰かぶり。 |
| 49 | 須恵器 | 杯蓋   | 灰原1区                                  | ①12.0 ②4.15<br>受部径14.5           | 外面1/2回転ヘラ削り、内面3/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。          | A精良。径1～4mmの白色砂礫や黒色粒子を少し含む。B良好C外灰白色10YR 7/1、黒斑褐色10YR 4/1、内青灰色5B 6/1～5/1            | 底部外面灰かぶり。             |
| 50 | 須恵器 | 杯蓋   | 灰原1区<br>灰原清浄時検出                       | ①10.3～11.8 ②4.35<br>受部径13.0～14.2 | 外面3/5回転ヘラ削り、内面3/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。          | A精良。径1～5mmの白色砂礫や黒褐色粒子を含む。B良好C外灰白色N 7/～明黄褐色10YR 6/6、内灰白色N 5/～N 4/                  | 底部外面板状圧痕とヘラ記号有り。      |
| 51 | 須恵器 | 杯蓋   | 灰原1区黒色土                               | ①(22.6)                          | 口縁部内外指オサエ後回転ナデ。                           | A精良。径1～2mmの白色粗砂を少し含む。Bやや不良C外にぶい黄褐色10YR 7/3～褐色10YR 6/1、内褐色10YR 6/1～5/1             |                       |
| 52 | 須恵器 | 杯蓋   | 灰原3区黒褐色土<br>灰原4区黄褐色土                  | ①(32.4)                          | 口縁部内外回転ナデ、頸部内面指頭痕あり、内面同心円文当て具痕。           | A精良。径1～3mmの白色砂礫を少し含む。B良好C外褐色10YR 4/1～黒褐色10YR 3/1、内灰黄褐色10YR 5/2～褐色10YR 4/4         | 口縁部外面に連続斜線文。          |
| 53 | 須恵器 | 杯蓋   | 灰原1区黒褐色土<br>灰原3・4区黒褐色土<br>SB01 4区黒褐色土 | ①(50.0)                          | 口縁部内外回転ナデ。                                | A精良。径1～5mmの白色砂礫や黒色粒子を多く含む。B良好C外黒褐色10YR 3/1、内褐色10YR 6/1～黒褐色10YR 3/2                | 口縁部外面に波状文。            |
| 54 | 須恵器 | 杯蓋   | 2号窯跡灰原清浄時検出                           | ①(13.0) ②3.7                     | 外面2/5回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ。          | A精良。径1mmの白色砂礫や黒色粒子を多く含む。B良好C外青灰色5B 6/3/1～青灰色5B 5/1、内青灰色5B 6/1～5/1                 | ヘラ記号有り。               |
| 55 | 須恵器 | 杯蓋   | 灰原付近表探                                | ①13.3 ②1.75つまみ<br>径2.6 つまみ高0.5   | 外面2/3回転ヘラ削り、内面2/3不定方向のナデ、他は回転ナデ、つまみを貼付。   | A精良。径1mm程度の白色粗砂を少量含む。B良好C内外灰白色N 6/～にぶい黄褐色10YR 7/2                                 |                       |
| 56 | 須恵器 | 杯蓋   | 灰原付近表探                                | ①14.5 ②1.05つまみ<br>径2.1 つまみ高0.3   | 外面2/3回転ヘラ削り、内面2/3不定方向のナデ、他は回転ナデ、つまみを貼付。   | A精良。径1～4mmの白色粗砂や黒色粒子を含む。Bやや不良C外灰白色10YR 8/1～7/1、内灰白色10YR 8/1                       |                       |
| 57 | 土製品 | 模印製品 | 灰原4区黒褐色土                              | ②4.05                            | 手づく成形                                     | A良好。径0.5～2.0mmの粗砂を含む。Bやや不良Cにぶい黄褐色10YR 8/3                                         | 底部に黒斑?あり。             |

## 野添遺跡3次調査

| 遺物番号 | 種類   | 器種 | 出土地点           | 法量cm①口径②器高③底径④最大径 | 形態・技法の特徴   | A胎土 B焼成 C色調                                                          | 備考  |
|------|------|----|----------------|-------------------|------------|----------------------------------------------------------------------|-----|
| 58   | 縄文土器 | 深鉢 | 遺跡内清浄時検出       |                   | 内外面ともナデ。   | A粗。径1～6mmの白色砂礫を多く含む。B良好C外明褐色7.5YR 5/8、内にぶい褐色7.5YR 6/4～にぶい褐色7.5YR 5/4 | 広田式 |
| 59   | 須恵器  | 甕  | 基準杭周辺トレンチ黒褐色土中 |                   | 口縁部内外回転ナデ。 | A精良。B良好C外灰白色N 7/、内にぶい黄褐色10YR 7/2                                     |     |

### Ⅲ．ま と め

#### 1．窯跡出土資料の等級的位置付け

##### 7世紀の須恵器の問題

今回報告した野添遺跡2次調査では、SB01よりⅣA期、2号窯跡からⅥ期の須恵器が出土した。現在のところ、ⅣA期は6世紀末から7世紀初頭、Ⅵ期は7世紀後半と考えている。近年、この7世紀代の土器に関して様々な問題提起がなされている。その問題提起は大きく分けると古墳時代的な杯Hと杯G・杯Bの出現と並行関係およびその年代観の問題に分けられる（註1）。これに対し、窯跡出土資料にはいかなる限界があるのかをまとめ、牛頸窯跡群における杯H・G・Bについてごく簡単にまとめてみたい。

##### 窯跡出土資料の資料的等級

まず窯跡出土資料について、尾野善裕氏のような指摘もあるが（註1-③）、筆者が窯跡を調査する際に考慮している資料的等級については以下のとおりである。

等級A・・作業時に天井等が崩落し、窯内に焼成中の製品が廃棄された資料（例 牛頸後田68地点 註2）

等級B・・貼床内からの出土資料（例 牛頸中通D-1号窯跡等）

等級C・・作業終了後、窯の床面上に残された資料（例 牛頸小田浦40-I号窯跡等）

等級D・・灰原が明確な間層でもって明瞭に分層される資料

等級E・・灰原が明瞭な層界で分層される資料

等級F・・灰原の間層・層界が明瞭でない資料

等級A～Cは窯内の資料、等級D～Fは灰原資料である。等級Aは窯の作業終了時期に等しく、組成を知る上でも重要な資料であり、窯跡出土資料としては唯一「一括」資料として取り扱うことができる。等級Bは窯の作業期間に含まれるが、周辺の窯跡や遺構の存在から前代の遺物が混入する可能性も否定できない。等級Cには窯内の「片付け」にともなう遺物と、窯の廃棄にともなう「祭祀」により残された遺物とがある。これらは基本的に窯の作業終了時もしくは直後の様相を表すが、特に「祭祀」には窯跡の作業時期とは異なる遺物を選択する可能性も残されており、一括性は等級Bより低いと考えられる。等級Dは作業ごとの遺物が層ごとに含まれる可能性があるが、新旧の遺物が混ざる可能性がある。等級Eは作業ごとの遺物が層ごとに含まれる可能性があるが、等級Dに比べて遺物の混ざる可能性がさらに高くなる。等級Fは窯の貼床や灰原が薄い場合は一括性が高いように思われるが、これは作業の実態を無視したものであくまで「一緒」に出土したものとして取り扱うべきものである。

以上のように窯跡出土資料の資料的等級を分類してみると、窯跡の場合「一括」資料として取り扱えるものが非常に限定されることが分かる。実際に窯跡の調査をおこなって、灰原を層ごとに上げてみてもその層は一回の作業時に限定できる根拠はなく、複数回の作業を考慮に入れておかななくてはならない。また、灰原全体において間層または明確な層界が確認し、かつ正確に掘り上げることは至難の技である。つまるところ、灰原資料は数年から数十年と考えられる窯跡の作業期間を表すものであって、「一括」して一つの型式として取り扱うことはできないと考えている。これに対し、窯内資料は作業のある時点を表す資料であり、「一括」性は高いが、資料等級としてはA～Cの3つの段

階が考えられる。これらは大局的に見て一つの型式として取り扱うことができようが、より「一括」性が高いのはAからCの順番と考えられる。

#### 牛頸窯跡群における杯H・G・B

牛頸窯跡群における杯H・G・Bについては、既に舟山良一氏によりまとめられている(註1-④)。氏によると、「牛頸窯跡群では杯H・杯G・杯A・Bが出土する場合には一部共伴しても、基本的には先後関係がある」として杯H・杯Bの共伴には懐疑的な立場をとっている。今回時間の都合上詳細な検討は経ないが、上記に挙げた窯跡出土資料等級の内、等級A～Cの中に一括遺物として杯H・Bが共伴する事例は認められていないことが指摘される。

## 2. 権状製品について

### 権状製品の集成と傾向

今回別表に示すように、福岡県内の権状製品について集成を試みた。県内の資料については既に吉村靖徳氏により1995年に福岡県内で56例の集成と考察がおこなわれており(註3)、今回は吉村氏の成果と1995年以降の資料の集成をおこなったものである。その結果、管見におよぶ限りでは89例を数えるに至った。これを簡単にまとめると、以下のとおりである。

時期(89例中32例) 古代14例・中世17例・近世1例

材質(89例中82例) 金属製8例・土製10例(瓦質を含む)・瓦製4例・石製62例

重量(89例中45例) 最小14.2g、最大184g

時期では7世紀後半と考えられる福岡市柏原G-1号墳が最古の資料であり、出土遺物から見ると今回報告の野添遺跡2次2号窯跡出土のものもほぼ同じ時期に位置付けられよう。また半分以上が時期不明のものであるが、今のところ確実に10世紀代にあたるものは見られない。材質では大半が石製であり、石製の62例中54例は滑石製である。こうした傾向は吉村氏が指摘されたとおりである。

### 窯跡出土の意義について

野添遺跡2次2号窯跡から権状製品が出土した意義について、簡単にまとめてみたい。権状製品が出土したのは灰原下層からで、底部に黒斑を有するが、窯で焼成されたと考えられる遺物がいずれも焼成不良品であることから権状製品も窯で焼成されたと判断した。九州で須恵器窯跡から権状製品が出土したのは初めてであるが、北陸地域の権状製品についてまとめられた望月精司氏によると36例のうち土製のものは25例を占め、そのうち須恵質のものは19例におよび、須恵器窯で焼成されたものが非常に多いことが指摘されている(註4)。野添遺跡2次例は窯で焼成されたと考えられるが、焼き上がりの悪さからか土師質になっている。また、福岡県内出土の土製のものに須恵質らしいものはないようである。したがって、今回窯跡から出土したものの、土製のものすべてが須恵器窯で焼成されたとは考えられず、野添遺跡2次例は極めて特殊なものとして捉えられる。

では野添遺跡2次例の意義について述べてみたい。従来白村江の戦い以降、水城・大野城の築造とともに大宰府が成立すると考えられ、大宰府政庁Ⅰ期は8世紀第1四半期初頭以前に位置付けられている(註5)。野添遺跡2次例はまさにこの時期に含まれている。『令義解』雜令によると「凡用度量権官司 謂 大蔵省及諸国国司之類 皆給様 其様皆銅為之」とあり、権の管理者が大蔵省や国司で

あり、基準器として銅製のものが存在したことが分かる。吉村氏によれば、金属製権の出土は京・大宰府・国府を中心にすることが明らかにされており、それ以外の権状製品も「官衙やそれに類する公的施設関連の遺跡からの出土頻度が極めて高い。」とされている（註3）。周辺において同時期の金属製権の出土は今のところなく、時期的・地理的に最も近い大宰府条坊跡200次例（註6）とも形態的に異なる点が気になるが、官の掌握する基準器を勝手に製作するとも考えられない。したがって、野添遺跡2次例は大宰府からの発注を受けて焼成された製品であり、7世紀後半に牛頸窯跡群が律令的な生産体制に入っていたことを示す重要な遺物であると考えられる。

註1 ①山本信夫『宮ノ本遺跡Ⅱ』太宰府市の文化財第10集（1992）

②古代の土器研究会『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東2 須恵器—』（1993）

③山村信榮「八世紀初頭の諸問題」『大宰府陶磁器研究—森田勉氏追悼論文集—』（1995）

④古代の土器研究会『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東5 7世紀の土器—』（1997）

⑤山村信榮「7世紀後半の諸問題」『古文化談叢』第41集 九州古文化研究会（1998）

⑥帝塚山大学考古学研究所歴史考古学研究会・古代の土器研究会『飛鳥・白鳳の瓦と土器—年代論—』（1999）

⑦佐藤隆「難波地域の新資料からみた7世紀の須恵器編年」『大阪歴史博物館研究紀要』第2号（2003）

註2 1996年大野城市教育委員会調査。未報告

註3 吉村靖徳「権衡に関する一考察」『九州歴史資料館研究論集』20（1995）

註4 望月精司「古代権状錘に関する一考察」『北陸古代土器研究』第10号（2003）

註5 石松ほか『大宰府政庁跡』九州歴史資料館（2002）

註6 小鹿野亮『大宰府条坊跡 第200次発掘調査』筑紫野市文化財調査報告書第75集（2003）

表3 福岡県内権状製品出土地名表

| No | 遺跡名       | 所在地          | 出土遺構       | 材質  | 重量(g) | 時期      |                  |
|----|-----------|--------------|------------|-----|-------|---------|------------------|
| 1  | 堅町遺跡第1地点  | 北九州市小倉北区堅町   | 254号土坑     | 瓦質  |       | 17世紀前半  | 市報告書244集(2000)   |
| 2  | 権ヶ迫遺跡     | 北九州市小倉南区埴田若園 | 包含層        | 土製  | 14.2  |         | 市調査室(1987)       |
| 3  | 潤崎遺跡      | 北九州市小倉南区大字貫  | 包含層        | 滑石  | 81    |         | 市調査室(1986)       |
| 4  | 白岩遺跡CⅡ区   | 北九州市八幡西区大字香月 | 包含層        | 滑石  | 136   |         | 市報告書3集(1980)     |
| 5  | 百留居屋敷遺跡   | 築上郡大平村大字百留   | D地区2号竪穴住居跡 | 滑石  | 58.1  | 8世紀後半   | 山国川関係報告3(1999)   |
| 6  | 荒堀雨久保遺跡   | 豊前市大字荒堀      | 2号住居跡      | 滑石  | 50.8  |         | 県報告書99集(1992)    |
| 7  | 小倉遺跡      | 若宮町下小倉       | 表採         |     |       |         | 吉村「九歴論集」20(1995) |
| 8  | 大分摩寺      | 筑穂町大字大分      | Lトレンチ      | 滑石  |       |         | 町報告書3集(1997)     |
| 9  | 箱掛遺跡      | 穂波町大字高田      |            |     |       |         | 町報告書4集(1989)     |
| 10 | 箱崎遺跡10次   | 福岡市東区箱崎      | S P 193    | 滑石  | 100   |         | 市報告書551集(1998)   |
| 11 | 箱崎遺跡10次   | 福岡市東区箱崎      | S K 15     | 滑石  | 47    | 12世紀後半  | 市報告書551集(1998)   |
| 12 | 海の中道遺跡3次  | 福岡市東区        | 包含層        | 滑石  |       |         | 市報告書87集(1982)    |
| 13 | 井相田C遺跡1次  | 福岡市博多区井相田    | S D-1      | 石   | 19.85 | ～9世紀前半  | 市報告書152集(1987)   |
| 14 | 吉塚遺跡3次    | 福岡市博多区堅粕     | S D 05     | 滑石  | 65    |         | 市報告書553集(1998)   |
| 15 | 高畑遺跡17次   | 福岡市博多区坂付6丁目  | 第1区大溝      | 砂岩  |       |         | 市報告書676集(2001)   |
| 16 | 博多駅・築港線4次 | 福岡市博多区上呉服町   | S P 3414   |     |       |         | 市報告書205集(1989)   |
| 17 | 博多駅・築港線5次 | 福岡市博多区上呉服町   | 1158号土坑    | 滑石  |       |         | 市報告書221集(1990)   |
| 18 | 博多遺跡群35次  | 福岡市博多区上呉服町   | F 3・S P 24 | 滑石  | 184   |         | 市報告書396集(1996)   |
| 19 | 博多遺跡群35次  | 福岡市博多区上呉服町   | 包含層2層      | 金属器 | 104   |         | 市報告書396集(1996)   |
| 20 | 博多遺跡群35次  | 福岡市博多区上呉服町   | 包含層2層      | 金属器 | 37    |         | 市報告書396集(1996)   |
| 21 | 博多遺跡群42次  | 福岡市博多区綱場町    | 1740号遺構    | 滑石  |       | 12世紀代   | 市報告書245集(1991)   |
| 22 | 博多遺跡群59次  | 福岡市博多区祇園町    | S K 28     | 滑石  | 79.97 | 12世紀前半  | 市報告書328集(1993)   |
| 23 | 博多遺跡群60次  | 福岡市博多区綱場町    | Ⅲ～Ⅳ面間      | 滑石  | 105   |         | 市報告書285集(1992)   |
| 24 | 博多遺跡群64次  | 福岡市博多区博多駅前   | S D 32     | 滑石? |       |         | 市報告書396集(1995)   |
| 25 | 博多遺跡群65次  | 福岡市博多区祇園町    | 530号土坑     | 鉄   | 115   |         | 市報告書329集(1993)   |
| 26 | 博多遺跡群67次  | 福岡市博多区冷泉町    | S K 05     | 土製  |       | ～12世紀後半 | 市報告書284集(1992)   |
| 27 | 博多遺跡群79次  | 福岡市博多区冷泉町    | 1827号遺構    | 滑石  |       | 12世紀前半  | 市報告書447集(1996)   |
| 28 | 博多遺跡群80次  | 福岡市博多区冷泉町    | 包含層        | 滑石  | 60    |         | 市報告書448集(1996)   |



|    |                         |            |             |      |       |         |                  |
|----|-------------------------|------------|-------------|------|-------|---------|------------------|
| 29 | 博多遺跡群85次                | 福岡市博多区上呉服町 |             | 滑石   |       |         | 市報告書522集(1997)   |
| 30 | 博多遺跡群85次                | 福岡市博多区上呉服町 |             | 滑石   |       |         | 市報告書522集(1997)   |
| 31 | 博多遺跡群85次                | 福岡市博多区上呉服町 |             | 滑石   |       |         | 市報告書522集(1997)   |
| 32 | 博多遺跡群95次                | 福岡市博多区店屋町  |             | 滑石   |       |         | 市報告書757集(2003)   |
| 33 | 博多遺跡群119次               | 福岡市博多区中呉服町 | 038号遺構      | 滑石   |       | 12世紀後半  | 市報告書668集(2000)   |
| 34 | 那珂遺跡群20次                | 福岡市博多区那珂   | S E 103     | 滑石   | 92.1  | 15~16世紀 | 市報告書324集(1993)   |
| 35 | 那珂遺跡群47次                | 福岡市博多区那珂   | S K 03      | 銅    | 34    |         | 市報告書454集(1996)   |
| 36 | 堅粕遺跡群 9 次               | 福岡市博多区吉塚   | 包含層         | 滑石   |       |         | 市報告書626集(2000)   |
| 37 | 田村遺跡群 4 次               | 福岡市早良区田村   | S C 04      | 滑石   |       | 12世紀    | 市報告書216集(1990)   |
| 38 | 日佐遺跡群 3 次               | 福岡市南区日佐    | S P 216     | 滑石   |       |         | 市報告書751集(2003)   |
| 39 | 柏原 G-1 号墳               | 福岡市南区柏原    | 羨道敷石        | 頁岩   | 20.35 | 7 世紀後半  | 市報告書125集(1986)   |
| 40 | 柏原 M 遺跡                 | 福岡市南区柏原    | M11グリット     | 砂岩   | 35.5  |         | 市報告書191集(1988)   |
| 41 | 元岡・桑原遺跡群20次             | 福岡市西区桑原    | S X 001     | 銅    | 97    | 8 世紀代   | 市報告書743集(2003)   |
| 42 | 元岡・桑原遺跡群20次             | 福岡市西区桑原    | S X 001     | 石    |       | 8 世紀代   | 市報告書743集(2003)   |
| 43 | 御笠川南条坊遺跡 1 次            | 太宰府市観世音寺   | 包含層         | 滑石   | 44    |         | 南バイパス第 8 集(1978) |
| 44 | 御笠川南条坊遺跡 5 次            | 太宰府市観世音寺   | 包含層         | 滑石   |       |         | 南バイパス第 2 集(1975) |
| 45 | 大宰府条坊跡 6 A Y E 地域14トレンチ | 太宰府市観世音寺   | 包含層         |      |       |         | 市の文化財 7 集(1983)  |
| 46 | 大宰府条坊跡27次               | 太宰府市観世音寺   | S D 188     | 滑石   |       |         | 市の文化財 8 集(1984)  |
| 47 | 大宰府条坊跡55次               | 太宰府市大字観世音寺 | S X 040     | 滑石   |       |         | 市の文化財59集(2002)   |
| 48 | 大宰府条坊跡64次               | 太宰府市大字南    | S 199       | 瓦    |       | 奈良?     | 市の文化財37集(1998)   |
| 49 | 大宰府条坊跡64次               | 太宰府市大字南    | S D 110上層   | 滑石   |       | 9 世紀後半  | 市の文化財37集(1998)   |
| 50 | 大宰府条坊跡65次               | 太宰府市通古賀    | 表土          | 瓦    | 69.1  |         | 市の文化財28集(1995)   |
| 51 | 大宰府条坊跡65次               | 太宰府市通古賀    | 表土          | 瓦    | 45.1  |         | 市の文化財28集(1995)   |
| 52 | 大宰府条坊跡71次               | 太宰府市通古賀    | 包含層         | 滑石   |       |         | 九歴論集20(1995)     |
| 53 | 大宰府条坊跡71次               | 太宰府市通古賀    |             | 滑石   |       |         | 九歴論集20(1995)     |
| 54 | 大宰府条坊跡71次               | 太宰府市通古賀    | 溝           | 滑石   |       |         | 九歴論集20(1995)     |
| 55 | 大宰府条坊跡71次               | 太宰府市通古賀    | 墓           | 滑石   |       |         | 九歴論集20(1995)     |
| 56 | 大宰府条坊跡89次               | 太宰府市通古賀    | 包含層         | 青銅   | 46.5  |         | 市の文化財28集(1995)   |
| 57 | 大宰府条坊跡141次              | 太宰府市通古賀    | S X 040     | 滑石   | 121.4 | 11世紀代   | 市の文化財30集(1996)   |
| 58 | 市の上遺跡                   | 太宰府市通古賀    | 包含層         | 土製   |       |         | 九歴論集20(1995)     |
| 59 | 大宰府史跡 9 次               | 太宰府市観世音寺   | 包含層         | 滑石   |       |         | 九歴論集20(1995)     |
| 60 | 大宰府史跡31次                | 太宰府市観世音寺   |             |      |       |         | 九歴論集20(1995)     |
| 61 | 大宰府史跡36次                | 太宰府市観世音寺   | 包含層         | 青銅   | 91.5  |         | 九歴論集20(1995)     |
| 62 | 大宰府史跡102次               | 太宰府市坂本     | 包含層         | 滑石   |       |         | 九歴論集20(1995)     |
| 63 | 大宰府史跡119次               | 太宰府市観世音寺   | 包含層         | 滑石   | 101   |         | 大宰府史跡元年概報(1990)  |
| 64 | 前田遺跡 6 次                | 太宰府市大佐野    | S K 025     | 土師質  | 61.7  | 8 世紀後半  | 市の文化財63集(2002)   |
| 65 | フケ遺跡 2 次                | 太宰府市大佐野    | S D 001     | 土製?  |       |         | 市の文化財35集(1997)   |
| 66 | 御笠平団印出土地周辺遺跡10次         | 太宰府市坂本     | 不明          | 滑石   |       |         | 市の文化財47集(2000)   |
| 67 | 筑前国分寺跡17次               | 太宰府市大字国分   | S E 005     | 滑石   |       | 平安?     | 市の文化財32集(2001)   |
| 68 | 大宰府条坊跡200次              | 筑紫野市二日市    | S K 298     | 金属器  | 45.6  | 8 世紀末   | 市報告書75集(2003)    |
| 69 | 辻田遺跡                    | 春日市大字上白水   | 包含層         | 滑石   | 38    |         | 山陽新幹線第12集(1979)  |
| 70 | 仲島遺跡51-1・2区             | 大野城市仲畑     | 包含層         | 滑石   | 24.12 |         | 市報告書17集(1986)    |
| 71 | 仲島遺跡51-1・2区             | 大野城市仲畑     | 包含層         | 滑石   | 21.3  |         | 市報告書17集(1986)    |
| 72 | 日ノ浦遺跡                   | 大野城市大字牛頭   | S K 05      | 滑石   | 33.95 | 8 世紀前半  | 市報告書42集(1994)    |
| 73 | 野添遺跡 2 次                | 大野城市上大利    | 2 号竪跡       | 土製   | 24.76 | 7 世紀後半  | 本書               |
| 74 | 高田小生水遺跡第Ⅱ地区             | 前原市        | 包含層上層       | 滑石   | 136.6 | 中世?     | 市報告書76集(2001)    |
| 75 | 柿原野田遺跡 D 地区             | 甘木市大字柿原    | ビット         | 瓦    | 86    |         | 柿原野田遺跡(1976)     |
| 76 | 小隈松山遺跡                  | 甘木市大字小隈    | 7 号土坑       | 土製   |       |         | 市報告18集(1987)     |
| 77 | 真奈板遺跡                   | 甘木市大字矢野竹   | 116号土坑      | 滑石   |       | 12世紀後半  | 県報告書105集(1993)   |
| 78 | 宮原遺跡 A I 区              | 甘木市宮原      | 表採          | 土製   | 33.75 |         | 横断道17(1990)      |
| 79 | 宮原遺跡 A I 区              | 甘木市宮原      | 7 号土坑上層     | 土製   | 24.5  | 8 世紀前半  | 横断道17(1990)      |
| 80 | 江栗遺跡 I 区                | 杷木町大字志波    | 下段包含層       | 滑石   | 37.2  | 12世紀中頃? | 横断道45下巻(1997)    |
| 81 | 江栗遺跡 I 区                | 杷木町大字志波    | I 区下段       | 滑石   | 101.1 | 12世紀中頃? | 横断道45下巻(1997)    |
| 82 | 西法寺遺跡                   | 朝倉町大字大庭    | 39号竪穴住居跡    | 硬質砂岩 | 48.7  |         | 横断道47(1997)      |
| 83 | 才田遺跡                    | 朝倉町大字入地    | 検出面採集       | 滑石   | 82.8  |         | 横断道48(1998)      |
| 84 | 筑後国府跡第122次              | 久留米市合川町    | S K 4335    | 滑石   |       | 11世紀代   | 市報告書100集(1995)   |
| 85 | 筑後国府跡第175次              | 久留米市朝妻町    | 179 S D 281 | 石製   | 25.4  |         | 市報告書182集(2002)   |
| 86 | 道蔵遺跡                    | 久留米市大善寺町   | S K 01      | 頁岩   | 45.5  | 8 世紀末   | 市報告書68集(1991)    |
| 87 | 道蔵遺跡 6 次                | 久留米市大善寺町   | S D 601・602 | 滑石   |       | 13世紀代   | 市報告書112集(1996)   |
| 88 | 金栗遺跡                    | 瀬高町大字下庄    | 1 号溝        | 滑石   | 84.9  | 13世紀後半  | 県報告書82集(1988)    |
| 89 | 金栗遺跡                    | 瀬高町大字下庄    | 2 号土坑       | 滑石   |       | 13世紀後半  | 県報告書82集(1988)    |

# 圖 版



(1) 2次調査地調査前全景（南から）



(2) 2次調査地全景（南から）

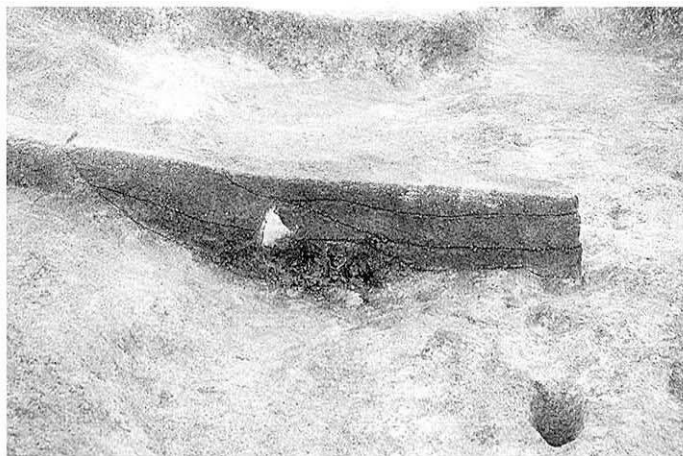


(1) 2次SB01全景（北から）

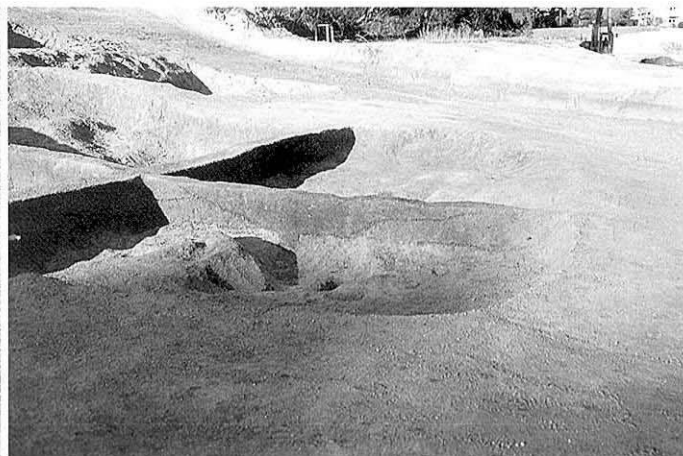


(2) 2次2号窯跡全景（南から）





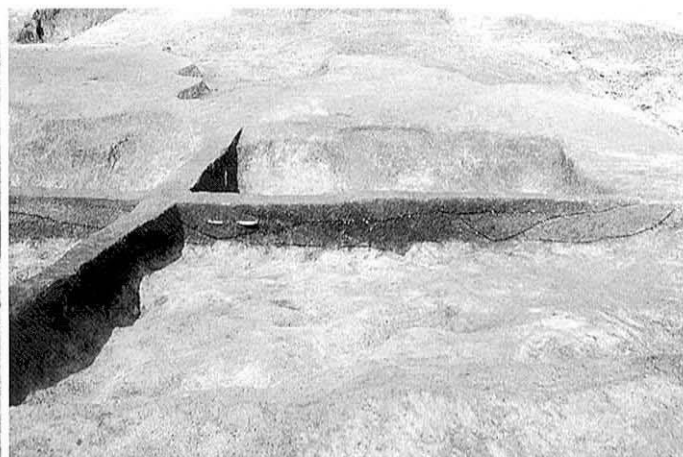
(1) 2次 SB01 B-B' 面北半部土層 (南西から)



(2) 2次 SB01 B-B' 面南半部土層 (南西から)



(3) 2次 SB01 A-A' 面西半部土層 (南東から)



(4) 2次 SB01 A-A' 面東半部土層 (南東から)



(5) 2次 2号窯跡 A-A' 面焼成部土層 (南西から)



(6) 2次 2号窯跡 A-A' 面焚口部土層 (南西から)



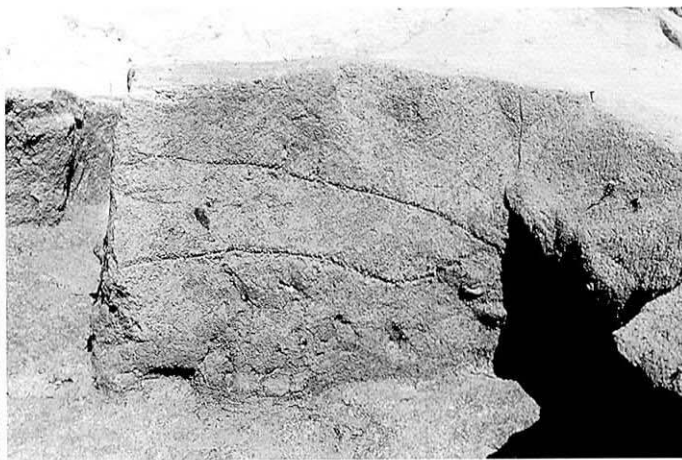
(7) 2次 2号窯跡 A-A' 面前庭部土層 (南西から)



(8) 2次 2号窯跡 A-A' 面灰原土層 (南西から)



(1) 2次2号窯跡C-C' 面土層 (南東から)



(2) 2次2号窯跡C-C' 面東半部土層 (南東から)



(3) 2次2号窯跡D-D' 面土層 (南東から)



(4) 2次2号窯跡E-E' 面土層 (南東から)



(5) 2次2号窯跡灰原横断面土層 (南東から)





(1) 3次調査地全景（北東から）



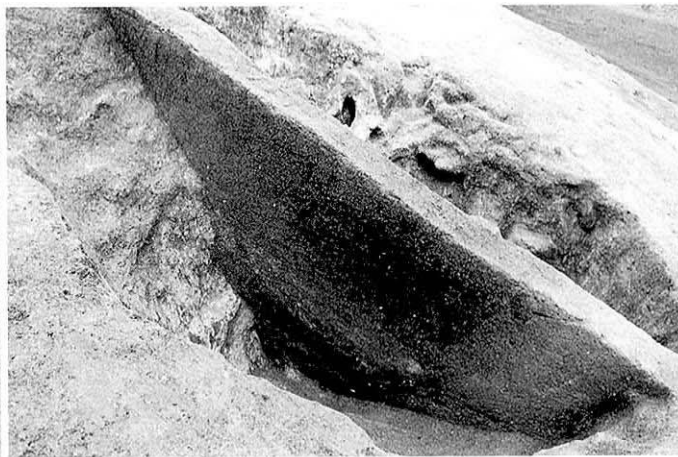
(2) 3次 SX01全景（北東から）



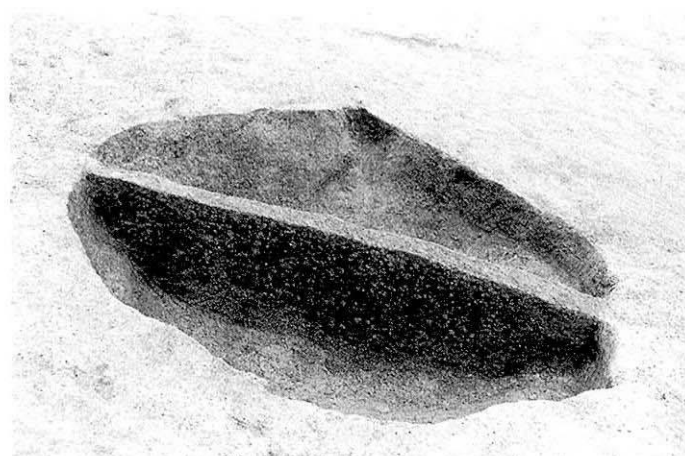
(1) 3次SX03全景（北東から）



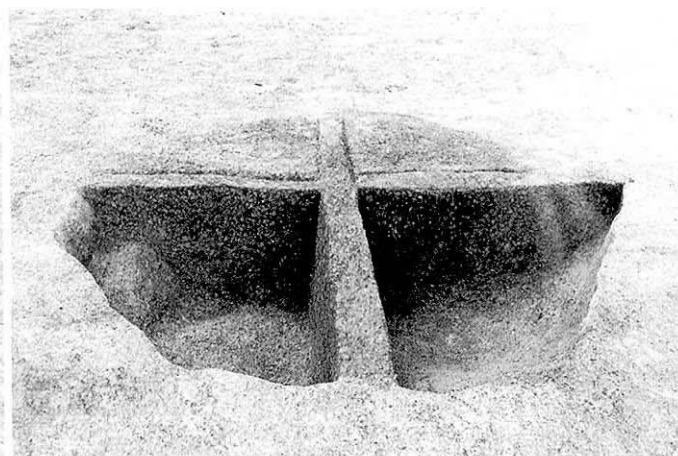
(2) 3次SX01土層（南東から）



(3) 3次SX03土層（南から）



(4) 3次SX02A-A'面土層（南東から）



(5) 3次SX02B-B'面土層（北東から）

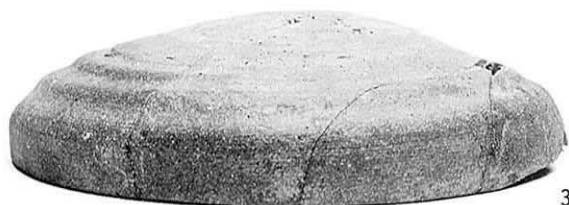




1



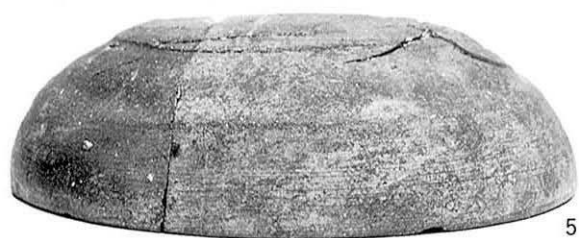
2



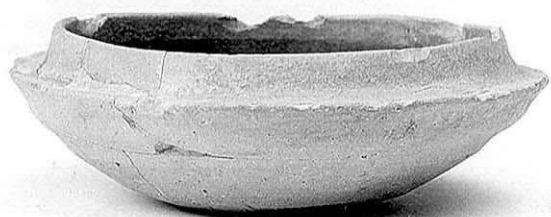
3



4



5



8



6



6 使用痕



7



7 使用痕



9



10



11



12



13



14



15



17



18



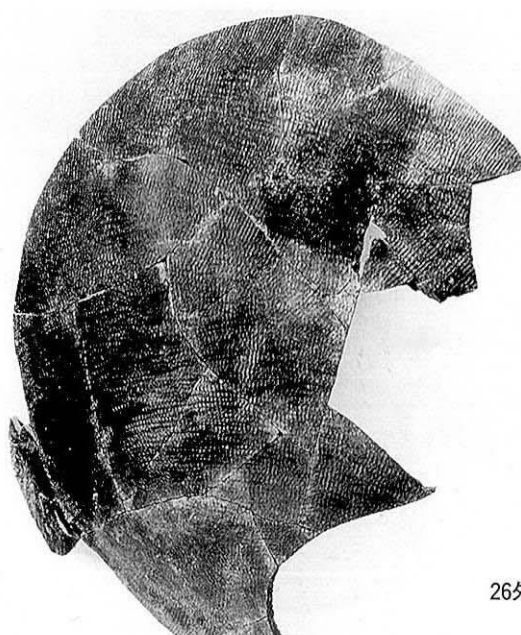
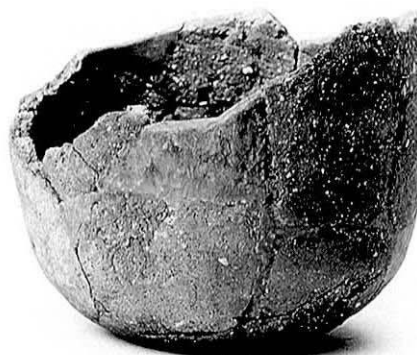
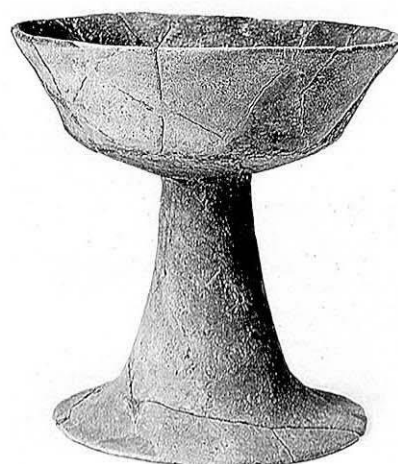
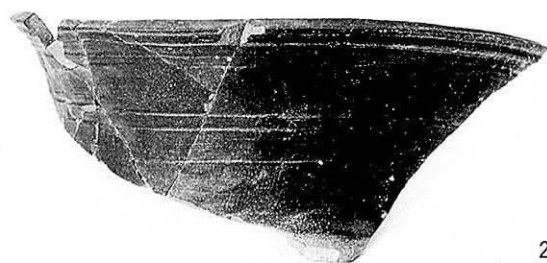
19



20



23



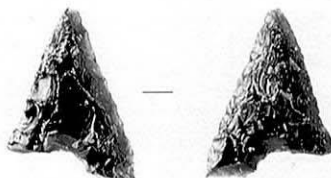




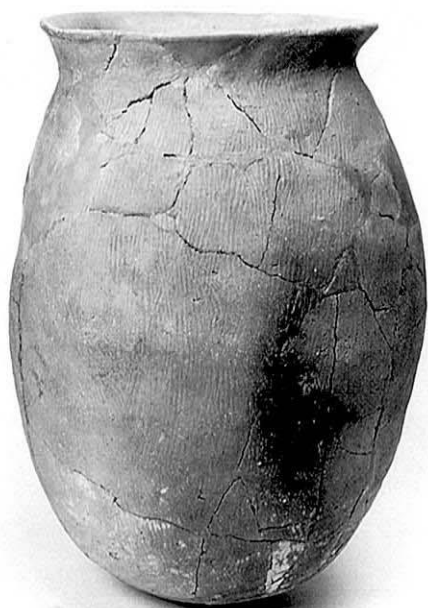
29



34



35



30



36



37



31



42



43

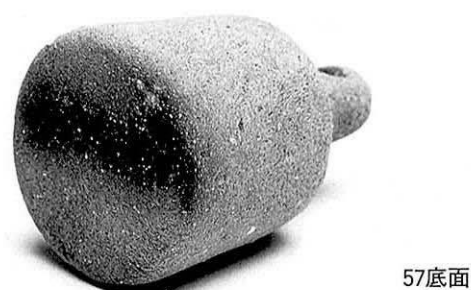
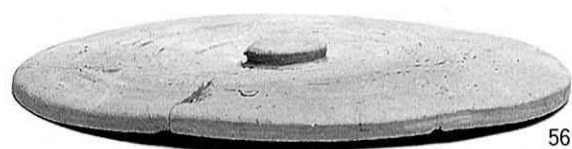
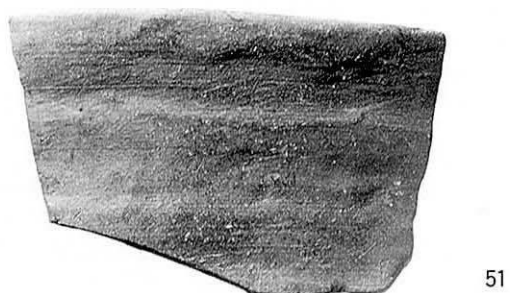
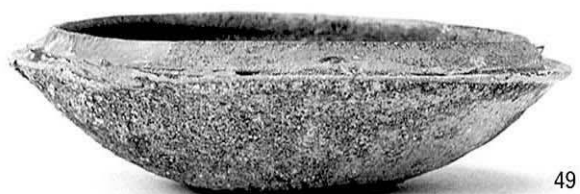
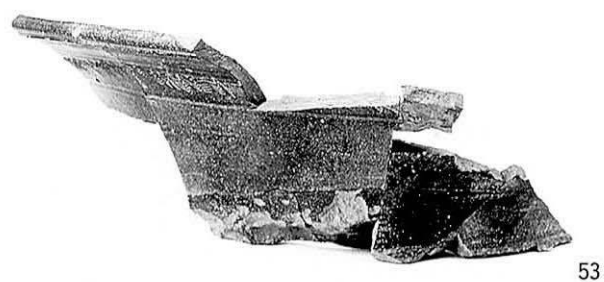
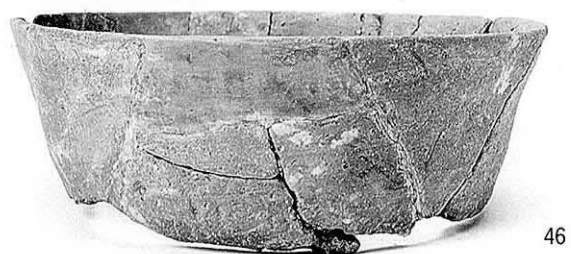


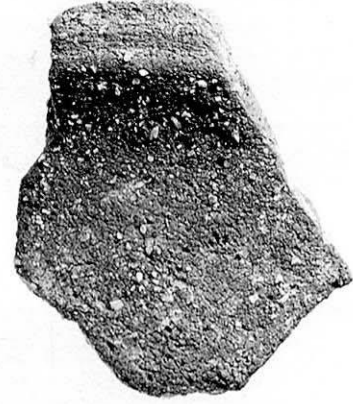
33



44







58



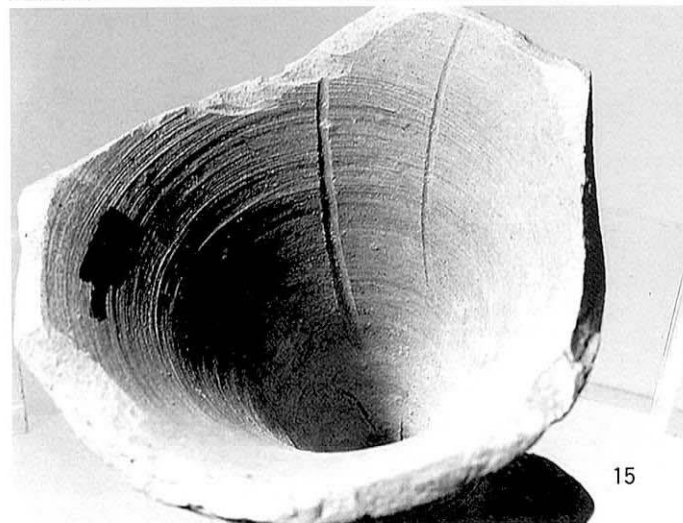
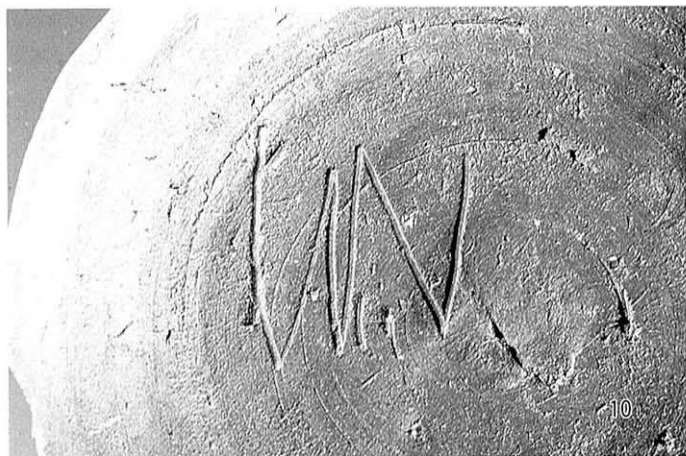
59

3次調査出土遺物



2次調査出土須恵器ヘラ記号①







# 報告書抄録

|                         |                                          |            |      |                   |            |                             |                        |      |
|-------------------------|------------------------------------------|------------|------|-------------------|------------|-----------------------------|------------------------|------|
| ふりがな                    | うしくびのぞえいせきぐん                             |            |      |                   |            |                             |                        |      |
| 書名                      | 牛頸野添遺跡群 I                                |            |      |                   |            |                             |                        |      |
| 副書名                     | 上大利南土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書               |            |      |                   |            |                             |                        |      |
| 巻次                      | I                                        |            |      |                   |            |                             |                        |      |
| シリーズ名                   | 大野城市文化財調査報告書                             |            |      |                   |            |                             |                        |      |
| シリーズ番号                  | 第62集                                     |            |      |                   |            |                             |                        |      |
| 編著者名                    | 石木 秀啓・平島 義孝                              |            |      |                   |            |                             |                        |      |
| 編集機関                    | 大野城市教育委員会                                |            |      |                   |            |                             |                        |      |
| 所在地                     | ㊦816-8510 福岡県大野城市曙町2丁目2番1号 ☎092(501)2211 |            |      |                   |            |                             |                        |      |
| 発行年月日                   | 2004年3月31日                               |            |      |                   |            |                             |                        |      |
| ふりがな<br>所収遺跡名           | ふりがな<br>所在地                              | コード<br>市町村 | 遺跡番号 | 北緯<br>。、"         | 東経<br>。、"  | 調査期間                        | 調査面積<br>m <sup>2</sup> | 調査原因 |
| のぞえいせき<br>野添遺跡<br>第2次調査 | 福岡県<br>大野城市<br>上大利                       |            |      | 33°30'41"         | 130°28'85" | 2002.1.30<br>/<br>2002.2.26 | 385m <sup>2</sup>      |      |
| 所収遺跡名                   | 種名                                       | 主な時代       |      | 主な遺構              |            | 主な遺物                        |                        | 特記事項 |
| 野添遺跡<br>第2次調査           | 窯跡                                       | 奈良         |      | 窯跡 1基<br>竪穴住居跡 1軒 |            | 須恵器<br>土師器 権<br>石鏃<br>紡錘車   |                        |      |
| ふりがな<br>所収遺跡名           | ふりがな<br>所在地                              | コード<br>市町村 | 遺跡番号 | 北緯<br>。、"         | 東経<br>。、"  | 調査期間                        | 調査面積<br>m <sup>2</sup> | 調査原因 |
| のぞえいせき<br>野添遺跡<br>第3次調査 | 福岡県<br>大野城市<br>上大利                       |            |      | 33°30'39"         | 130°28'77" | 2002.2.13<br>/<br>2002.3.8  | 1145.7m <sup>2</sup>   |      |
| 所収遺跡名                   | 種名                                       | 主な時代       |      | 主な遺構              |            | 主な遺物                        |                        | 特記事項 |
| 野添遺跡<br>第3次調査           | 散布地                                      | 縄文・古墳      |      | 土坑 3基             |            | 縄文土器<br>須恵器                 |                        |      |

大野城市文化財調査報告書 第62集

牛頸野添遺跡群 I

平成16年 3 月31日

発 行 大野城市教育委員会  
福岡県大野城市曙町2-2-1

印 刷 株式会社 昭 和 堂  
福岡市博多区榎田2-2-52 徳重ビル